

住所
族籍
氏
名
生年月

一營業區域
何郡ノ内何町村、何町村又ハ何郡一圓

一營業區域内廣袤
東西何里南北何里

一全地勢
東何山ヲ負ヒ何郡村ニ接シ南何川ニ臨ミテ何郡村ニ向ヒ北何々西何々地勢平坦又ハ峻峻通行
何々等可成詳細ニ記述スヘシ

一全馬匹頭數
何百何十頭

一開業獸醫居住地ヨリ假開業出願獸醫營業區域境界迄ノ最近距離

一假開業獸醫居住地ヨリ假開業出願獸醫區域境界迄ノ最近距離

○長野縣訓令第八十九號

郡役所
警察署

警察分署
町村役場

從來氣象報告上使用セル佛厘佛尺佛厘等ノ文字ヲ廢シ更ニ「メートル」法度量衡記號左ノ通相定メ
タル旨中央氣象臺ノ通牒ニ據リ來ル七月一日以降ノ報告ニハ右記號ヲ用フ

明治廿四年六月三十日
長野縣知事 淺田徳則

「メートル」法度量衡記號

記號	度	記號	量	記號	衡	記號	地	記號	積
米	ミリメートル	分數	センチメートル	種	ミリグラム	種	センチメートル	種	センチメートル
粉	センチメートル	分數	センチメートル	種	センチグラム	種	センチメートル	種	センチメートル
米	メートル	單位	リットル	種	グラム	種	センチメートル	種	センチメートル
料	デカメートル	單位	リットル	種	グラム	種	センチメートル	種	センチメートル
料	ヘクトメートル	單位	リットル	種	グラム	種	センチメートル	種	センチメートル
料	キロメートル	單位	リットル	種	グラム	種	センチメートル	種	センチメートル

ノノ部 農工商

○長野縣訓令第七十五號

町村 役場

度量衡取締規則第三條第四條ニ依リ度量衡器ノ臨檢ヲナストキハ左ノ通心得ヘシ

長野縣知事 淺田 徳則

明治二十五年十二月廿八日

度量衡器臨檢心得

第一條 製作場、修造場ノ臨檢ヲナストキハ左ノ各項ニ就キ取調フヘシ

一 設計實施ノ有無

(イ) 工場其他ノ構造ニ變更シタル箇所ナキヤ否ヤ

(ロ) 資本金ニ異動ヲ生セサルヤ否ヤ

(ハ) 技師、職工ノ員數ニ異動ヲ生セサルヤ否ヤ

(ニ) 器物ノ種類、形狀、物質ニ於テ不都合ノ廉ナキヤ否ヤ

製造、修覆用材ニ不完全ノ物ヲ用ヒサルヤ否ヤ

三 明細簿ノ記入ニ不都合ノ廉ナキヤ否ヤ

四 前各項ノ外違法ノ所爲ナキヤ否ヤ

第二條 販賣所ノ臨檢ヲナストキハ左ノ各項ニ就キ取調フヘシ

一 設計實施ノ有無

(イ) 販賣所ノ構造ニ變更シタル箇所ナキヤ否ヤ

(ロ) 資本金ニ異動ヲ生セサルヤ否ヤ

(ハ) 器物ノ形狀、種類、物質ニ於テ不都合ノ廉ナキヤ否ヤ

二 明細簿ノ記入ニ不都合ノ廉ナキヤ否ヤ

三 前各項ノ外違法ノ所爲ナキヤ否ヤ

第三條 使用者ニ就キ臨檢スルトキハ左ノ各項ニ就キ取調フヘシ

一 度量器

(イ) 兩端磨減シテ全長ニ差狂ヲ生シ若クハ狂撓シタルモノナキヤ否ヤ

疊尺ノ接續部ニ緩ミヲ生シ全長ニ差狂ヲ生シタルモノナキヤ否ヤ

目盛、全長ノ表記、記號、年號、並ニ番號ノ磨減シタルモノナキヤ否ヤ

其他構造ニ差狂ヲ生シタル箇所ナキヤ否ヤ

二 量器

(イ) 槽糖其他容量ノ減スヘキモノ附着セサルヤ否ヤ

銷等衛生上有害ノモノ附着セサルヤ否ヤ

構造ニ變狀ヲ來シタルモノナキヤ否ヤ

全量ノ表記、記號、年號、並ニ番號ノ磨減シタルモノナキヤ否ヤ

斗概ノ側面ニ凹凸ヲ生シ若クハ狂撓シタルモノナキヤ否ヤ

前各項ノ外構造ニ變狀ヲ來シタルモノナキヤ否ヤ

三 衡器

(イ) 指針ニ曲リタルモノナキヤ否ヤ

桿ノ狂撓シタルモノナキヤ否ヤ

(ロ) 目盛、記號、年號、並ニ番號ノ磨減シタルモノナキヤ否ヤ

ノノ部 農工商

(二) 構造ニ變状ヲ來シタルモノナキヤ否ヤ
 第四條 臨檢ノ際携帶スヘキ證票ハ明治廿六年一月十日迄ニ町村長ヨリ直ニ縣知事ニ請求シ爾後紛失毀損シタルトキハ其都度事由ヲ具シ再交付ヲ請求スヘシ
 但町村長更迭ノ際ハ其都度前任者ノ證票ヲ添ヘ後任者ヨリ請求スヘシ
 第五條 製作場、修繕場、販賣所又ハ使用者ニ就キ臨檢シタル事實ハ其都度町村長ヨリ直ニ縣知事ヘ報告スヘシ

○達第四百二十二號

諏訪郡役所

其郡鷺湖ニ接スル天龍川字釜口ニ於テ無許可粗朶ヤツカ等排置漁業候儀不相成候條其旨沿岸漁業者ヘ達方取計フヘシ
 明治廿年十一月廿八日
 長野縣知事 木梨精一郎

○達第五號

上水内郡役所

其郡内野尻村外ニケ村所屬芙蓉湖ニ於テ鱒鮠捕獲不相成旨明治十三年三月十九日付勸第三百六十七號ヲ以テ接近村落ヘ及諭達置候處自今漁獵解禁候條關係村落ヘ達方取計ヘシ
 明治廿一年一月廿三日
 長野縣知事 木梨精一郎

○達第九十九號

郡 役 所

私立銀行及銀行類似會社等ノ營業如何ハ財政上頗注意ヲ要スル義ニ付自今毎季決算ノ際損益勘定ノ都合其他半季間營業ノ要計ヲ記載シタル報告書正副貳通ヲ差出サシメ毎年七月十五日限リ取經メ本廳ヘ差出ヌ可シ
 但本支店若クハ分店出張所等各自所在地ニ於テ差出サシムル義ト心得可シ
 明治二十一年六月十三日
 長野縣知事 木梨精一郎

○長野縣達甲第八十八號

下伊那郡役所
更級郡役所

新嘗祭ハ毎年豐熟ノ新穀ヲ以テ畏クモ 天皇陛下御親祭アラセラル、所ノモノニシテ國家ノ嚴儀タルハ世人ノ皆知ル所ナリ而シテ供御ノ新穀ハ明治以前ニアリテハ山城國宇治郡御料ヨリ貢セシメ全五年以來ハ大藏省ヨリ納メ十一年ヨリハ東京府ヨリシ十四年ヨリハ植物御苑ノ收ムル所ヲ以テ供御ニセサセ給ヘリト抑此祭典ハ歷朝繼續シ數千年如何ナル御代ニ於テモ變易セラル、コト無之是レ則チ其本ヲ忘レ給ハス且民命ヲ重シ給ヒ 天祖ニ報ヒ以テ年々ノ豐饒ヲ祈ラセ給フモノニシテ萬民生活スル所ノ食ハ當初 天祖ノ賜ナルヲ忘レシメ彌農事ヲ勵マシメ給フヘキノ重祀ナレハ國民タルモノハ此意ヲ奉體シ 聖意ニ副ヒ奉ランヲ冀フヤ勿論ナリ依テ本年ヨリ新嘗祭神饌ノ資ニ供セラル、所ノ新穀精米精粟ハ地方有志ノ農民ヨリ献納セントスルモノハ裁

ノノ部 農工商

可相成候條其郡内ニ於テ献納セント欲スル有志者ハ別紙手續指示スヘシ
明治二十五年五月十七日 長野縣知事 淺田徳則

新嘗祭供御ノ新穀献納手續

- 一 新嘗祭ニ供御セラル、新穀ハ老農若クハ農事篤志ノ有志者ヨリ献納スルモノトス
- 二 献納ノ新穀ハ耕作肥料等専ラ精淨ヲ旨トシ且初穂タルヘシ
但精米五合精粟二合五勺ヲ限リトス
- 一 數名共同シテ献納セントスル場合ニ於テハ有志總代ノ氏名ヲ以テスヘシ
- 一 献納ノ新穀ハ宮内省宛ヲ以テ十月廿日限リ本廳ヘ到達スル様差出スヘシ

〇已第四十二號

種子交換手續別紙之通相定候條此旨告示候事

明治十六年四月十日

長野縣令

大野 誠

種子交換手續

- 第一條 内外國種ノ穀菜其他諸植物ノ種子等ヲ交換試作セントスルモノハ左ノ條項ニ依ルヘシ
- 第二條 種子ヲ交換試作セント欲シ其便宜ヲ得ザルモノハ甲號書式ニ倣ヒ春夏作ハ前年十一月秋
冬作ハ其年六月限リ種子請求願書ヲ郡役所ヘ差出ヘシ
- 第三條 各郡役所ニ於テハ前條ノ手續ヲ經テ請求スルモノアルハ其願書ニ就テ風土ノ適否利益ノ有
無ヲ豫メ調査シ大槩實地適應利益アルモノト認ルハ添書シテ速ニ其願書ヲ本縣ヘ回送スヘシ
- 第四條 此規則ニ據リ請求ヲ出願スルモノハ其運送荷造等ニ係ル費用ハ總テ勸業費ヨリ支出シ種

十九年告示
第六十八號
ノ以テ本文
ノ通改正

十七年告示
第七十七號
ト改紙一用紙
ト改紙一用紙

子ノ代價ハ自辨タルヘシ

第五條 縣廳ハ務メテ其請求ノ手續ヲナスト雖モ尙審査ノ上有用ナラサル植物ト認ムルカ或ハ出
願ノモノ夥多ニシテ豫定金額ニ超過スル等ノ場合ニアリテハ請求ノ手續ヲナサス其旨郡役所ヲ
經テ告知スヘシ

第六條 請求シタル種子試作ノ景況ハ勸業委員ニ於テ試作人若クハ實地ニ就キ乙號雛形ニ準シ調
査ノ上郡役所ヘ報告シ郡役所ニテハ其時々本縣ヘ通信スヘシ但勸業委員設置之レナキ町村ハ試
作人ヨリ郡役所ヨリ郡役所ヘ報告スヘシ

第七條 遠隔ノ地方ヨリ請求スル種子ノ中穀類ノ如キハ大約三ヶ年ヲ經過セサレハ其可否ヲ判別
スル能ハス故ニ初年ハ其希望ノ種子少量ヲ求メ試作シ翌年之ヲ作り換ヘシ三年目ニ至ツテ選種
シ廣ク耕作スヘシ

但シ遠隔ノ地方ヨリ請求スル種子ト雖モ從來試作適應ノ分ハ多量ヲ需ムルモ妨ケナシ
甲號 願書式 用紙半紙露置

種子請求願

- 一 種類 早中晩稻大小麥豆或ハ何々等
- 一 産地 何府下何國何郡何村
- 一 數量 何斗何升何合

右試作致度ニ付キ購求方御取計被成下度此段奉願候也

年月日

何郡何村

何之誰

ノノ部 農工商

七百二十七

乙號 雜形

縣令宛

何那何町戸長

何之誰

何那何町

試作人

何之誰

稻耕作表

名稱	種類	產地	播種	苗代田ノ土及質	及苗代ノ仕立
早中晚稻島坊主コボレ或ハ何々		原何縣何國何郡何村	水撰或ハ何々	苗代田ハ粘土礫土又ハ砂田深田等耕作地ハ何々	何月何日頃起返シ土塊ヲ碎キ何肥ヲ施シ壹坪ニ種何程ヲ播種シ或ハ壹反歩ニ植ルルハ何程ヲ要ス

入地拵及ヒ手	移植ノ期及法	成熟ノ期及	高坪量數目及比較
植付前地拵ノ方法起返ノ深淺植付ヨリ收穫迄ノ手入及ヒ除草ノ度數施肥ノ期節	播種ヨリ幾十日ヲ經テ苗凡ソ何寸ニ長シタルハ何本ヲ壹株トシ壹坪ニ幾株ヲ植ル	何月何日頃花ヲ開キ何日頃實ヲ結ヒ何日頃刈入又植付ヨリ刈入マテノ日數	何坪ニテ古來耕作ノ分ハ何石何升何合又新稻ノ分ハ何石何斗何升差引古來又ハ新稻ノ分何斗何升何合増又ハ減且各壹升ノ量目ヲ記載ス

麥粟稗豆耕作表

何那何町

試作人

何之誰

名稱	產地	地質
大小麥大小豆粟又有毛無毛何々白黑色何々等	原何縣何國何郡何村	粘土礫土或ハ何々

農工商

撰種	水撰或ハ何々
地拵及ヒ手入	蒔キ付テ地拵及ヒ起返ノ深淺蒔付ヨリ拵入マテ手入除草ノ度敷施肥ノ期節并度敷
播種ノ方ノ法期	何月何日頃一畝歩ニ付種何升ヲ蒔キ株蒔ノ區別畦幅ノ廣狹及壹坪ニ凡幾株
成熟ノ及ヒ期	何月何日頃穂ヲ拔キ花ヲ開キ何日頃實ヲ結ヒ何日頃蒔取り蒔付ヨリ拵取マテノ日敷
高坪量目及收穰	何坪ニテ古種何々ハ何石何斗何升何合新種ハ何石何斗何升何合差引新古増減且ツ各壹升ノ量目ヲ記載比較スヘシ

何那何村
試作人
何之謹

樹實栽培表

木種	杉檜落葉松其他何々
產地	原何縣何國何郡何村

○戊第十六號

質苗圃ノ土	墟土又ハ眞土砂土等
撰種	水撰或ハ何々
苗床ノ拵種方	何月何日頃ヨリ降手シ地拵肥培ノ手續及ヒ何種ハ壹坪ニ付何程ヲ播種スル等
苗圃手入	播種後保護出芽ノ手當又ハ初メヨリ移植マテ幾回假植ヲナシ及ヒ其間ノ月日及ヒ手入等
假植ノ其方期節	何種ハ播種ヨリ幾月ヲ經テ假植ヲナシ及ヒ其假植ヲナスヘキ期節或ハ假植後ノ手當培養ノ度敷等
山林移植後	移植ノ期節何木ハ何々ノ土質ニ適シ又何木ハ何坪ニ何本ノ割合ヲ以テ移植シ且移植後ノ手當ヲ云フ

但シ樹實栽培ノ如キハ穀菜種子ノ耕作ト異ナリ一年ニシテ其結果ヲ見ル能ハサルハ本植ノ後其景況ヲ報告スルモノトス

右ハ大略ノ書例ナルヲ以テ綿茶烟草其他ハ前表ニ倣ヒ詳細報告スヘシ

本縣分析試驗所規則左之通相定候條此旨告示候事

明治十七年一月廿四日

長野縣令 大野 誠

長野縣分析試驗所規則

第一條 本場ハ物体ノ組成スル物質ヲ知了シ肥料ノ効驗土壤ノ沃瘠農産ノ良否礦物ノ性分含有ノ多寡等ヲ分析試驗スルノ所トス

第二條 本場ハ總テ勸業課ノ主管ニ屬ス

第三條 本場ハ礦物管内土壤全及農産物等之レカ分析チ乞フモノアルキハ其需ニ應スヘシ但分析ノ効ナキモノト認ムルキハ其理由ヲ示シ直チニ返附スヘシ

第四條 分析チ乞フモノハ其分析ニ要スル藥品代價及物品運送ニ係ル費用ハ自辨スルヘシ

第五條 分析チ乞フモノハ物品左表ノ量ヲ差出スヘシ

但差出タル物品若シ殘餘アルキハ參考ノ爲本場ニ備置返還セサルモノトス

液	固	体	体形	礦物	農産物	土	壤	肥料	水
体	二貫目以上	全	上	全	上	全	上	全	上
						上層一貫目以上	下層全		

附言

第一 礦物ハ金屬非金屬ヲ問ハス同質ニシテ其質最モ多量ヲ有スル者ト最モ少量ヲ有スルモノト認メタルモノニ個ヲ要ス

第二 農産物肥料等ハ全質ニシテ其質善良ナル者ト粗惡ナル者ト認メタルモノニ種ヲ要ス

第三 土壤ハ上層凡三尺四面ヲ掘採シ之ヲ混和セシモノ一種ト下層全上ノ如クセシモノ一種トス且上層ト下層ト混同セサル様注意送達スルヲ要ス

第六條 分析チ乞フモノハ左ノ書式ニ準ヒ出願スヘシ但農産物及肥料等ハ其產出高並ニ製造法使用法及方言ハ勿論其他物品ニ關スル事故ハ成ルヘシ精細ニ書シ其物品ニ添付スヘシ

書式

分析願

何程

一物名

何國何郡何町字何々ニ産シ名稱(方言)從來何々ニ用フ

右御分析之上其結果並ニ性質効用等御差示シ被成下度此段奉願候也

何郡何村族籍

何之誰

年月日

右村戶長

何之誰

縣令 宛

第七條 本場ニ於テ分析セシ物品ハ分析成果表ヲ製シ分析請求人ヘ開示シ而シテ本縣勸農月報ニ登錄スルモノトス

○告示第四百號
開業歇業(假開業歇業ヲ除ク)ニシテ明治二十二年十二月一日以後轉居セシモノハ其都度當廳經由
農商務省農務局ヘ届出ヘシ

明治廿二年十二月五日

長野縣知事 木梨精一郎

○長野縣告示第貳號
來明治二十六年北米合衆國シカゴ府ニ開設スル蘭龍世界博覽會出品ニ係ル要旨及出品物數量左之
通相定ム

明治廿五年一月十八日

長野縣知事 淺田德則

出品ニ係ル要旨

- 第一 臨時博覽會事務局第一號告示ノ旨趣ニ依リ本縣ハ特ニ左ノ品類ノ出品ヲ以テ主眼トス
生糸 天蠶糸 絹織物(白羽二重、白縮緬) 大麻 元結 美簞敷物 凍瓊脂 薄荷
- 第二 出品上ノ注意及協議ヲ盡サンカ爲メ可成團體ヲ組織シ其各團體ニ於テ充分ノ協議考究ヲ
盡シ出品上ノ利益ヲ謀ルヘシ
- 第三 出品物製造上注意ヲ要スルニシテ足ラスト雖モ他種メテ意匠ヲ練リ形容畫趣上最モ注意
ヲ要ス
- 第四 出品本目錄書式中出品者氏名ノ區ヘハ本人ノ氏名ヲ記シ結社又ハ組合ヲ設ケ或ハ數人申
合セ出品スル者ハ社名又ハ組合名或ハ連名ヲ記載スヘシ尤モ多人數ニシテ區内ニ記入シ難キ
モノハ便宜ニ依リ誰外幾名ト記スルモ妨ケナシ

第五 物質ノ區ヘハ生糸ハ(蠶糸)織物ハ(絹)元結ハ(紙)等ノ如ク其原質ヲ記スヘシ

第六 量數ノ區ヘハ個、反、疋、斤、束、等ト記載シ組合セタルモノハ但シ何枚一組何個ト傍記ス
ヘシ

第七 容積ノ區ヘハ其品物ノ寸尺ヲ記スヘシ

第八 原價ノ區ヘハ製作ニ係ル實費額ヲ記スヘシ

第九 賣價ノ區ヘハ原價並ニ雜費海關稅運賃保險料等及利益ノ見込ヲ合算シ賣價ヲ記載スヘシ

第十 入記目錄ヘハ記號番號性質數量及本邦ノ市價ヲ表示スルモノ三通英文ニテ調製スヘシ

第十一 外箱ノ大小長短ハ其品物ニ依リ異動アリテ一定シ難シト雖モ長三尺巾二尺四寸高二尺
四寸位ヲ最モ便利トス故ニ成ルヘク右寸法若クハ二分ノ一ニ當ル樣造ルヘシ

第十二 外箱ノ材料ハ松杉ノ荒木ニテ重キ品若クハ大ナル品ヲ容ル、ニハ一寸五分板カニ寸板
ヲ用ヒ或ハ一寸板八分板位ニテ造リ外面ニ格子ノ梓ヲ打付シルモ便ナルヘシ

但シ螺旋釘ヲ用ユルヲ便トス

第十三 破損シ易キモノヲ箱ニ詰メルニハ藁ニテ綿密ニ隙ノナキ樣ニシテ大小輕重形容種類ニ
ヨリ詰メ方ニ注意ヲ要スルヲ多シ又目方重量ナルモノハ小箱ニ入ル、ヲ要ス而シテ箱ニ詰ル
ニハ綿又ハ桐ノ乾燥シタル軟カナル鉋屑ヲ用ユヘシ織物類ハ能ク乾燥セシメ紙ニテ包ミ五六

反寄セテ板ニ狭ムカ又ハ棒ニ卷キテ荷造スヘシ

第十四 出品陳列及其裝飾等ニ就キ特ニ希望アルモノハ其詳細ヲ書面ニ認メ本會委員長ヘ申請
シ何分ノ指示ヲ受クヘシ

出品物數量

ノノ部 農工商

廿五年告示
第十七號ヲ
以テ本文ノ
通改正
全上
全上

○長野縣告示第百三十六號

一 出品部類目錄中Kノ區(美術繪畫)ニ屬スル物品ハ勿論其他ノモノト雖同目錄中第九十二部ノ美術金屬細工七寶等第九十三部ノ玻璃製品第九十五部ノ彫刻物第九十六部ノ金銀製器具第九十七部ノ寶石品及裝飾品第五百部ノレース刺繡品粧飾品造花等ノ如キ美術工藝品ニ至リテハ其品柄ニヨリ豫メ出品ノ數量ヲ一定スルヲ能ハサルヲ以テ是等物品ノ數ハ其大小ヲ問ハス各自ノ伎倆ヲ示シ得ルヲ旨トシ其他普通商品出品ノ數量ハ概ネ左ノ如シ

第一 生糸ハ每品百斤トス(二十八束五十斤(十四束)三十斤(八束))

第二 織物ニシテ普通ノ反物ハ每品六反匹モノハ六匹卷モノハ六卷手巾ノ類ハ每品六ダース但シ一品ニ付金二十五圓ノモノハ此限リニ非ス

第三 纖維料ハ常ニ販賣ニ出ス所ノ十把

第四 凍瓊脂ハ十斤

第五 元結ハ一千五百若シハ一千輪

第六 美響敷物等ハ六枚以上十二枚以內

第七 化學製品及藥劑ノ如キハ小瓶入ノモノハ每品六ダース樹目ヲ以テ算スルモノハ壹斗斤目ナラバ五十斤

但シ本文ノ品ニシテ高價ナルモノハ出品トシテ表明シ得ヘキ分量ニ減スルモ妨ゲナシ

第八 審査ニ際シ消耗スル物品ニシテ本出品ノ内ヲ以テ之ニ充テ一定ノ數量ニ不足ヲ生シ賣買上不都合ノモノハ審査用トシ別ニ全一ノ物品ヲ適宜添出スヘシ

七百三十六

明治廿五年十二月廿八日

紙製 第 號 曲尺三寸

長野縣度量衡檢定官之證
長野縣屬(按手又ハ判)某
縣割印

紙製 第 號 曲尺三寸

長野縣度量衡取締員之證
何那何町村長某
縣割印

長野縣知事 淺田德則

長野縣

長野縣

縣印

縣印

ノノ部 農工商

七百三十七

明治廿五年十二月廿八日 本縣令第六十五號度量衡取締規則ニ依リ臨檢スル檢定官及町村長ノ携帶スヘキ證票ハ左ノ如シ

○明治十六年太政官第十三號布達第七條ニ依リ勸業委員及勸業會準則并勸業委員撰舉順序別紙ノ通相定候條該則ニ準據シ施行可致此旨諭達候事

長野縣令 大野 誠

明治十七年六月十二日

第一章 勸業委員

第一條 勸業委員ハ每郡役所管轄部内ニ四名以内ヲ設置スルモノトス

但一部内四名ヲ以テ積算シ其總人員内ニ於テ甲乙部互ニ其人員ヲ増減スルコトアルヘシ

第二條 勸業委員ノ撰舉方法及處務規程ハ郡長ニ於テ其方案ヲ設テ聯合町村會ニ附シ決議ノ上縣知事ノ裁可ヲ受クルモノトス

第三條 勸業委員ハ其郡内農商工事ノ進歩ヲ圖リ縣知事及郡長指揮スル所ノ事務並戸長ヨリ協議ノ事務ヲ處辨スルモノトス其概目左ノ如シ

- 第一 動植物蕃殖及改良
- 第二 耕作及農具ノ改良
- 第三 惡蟲及有害鳥獸ノ驅除
- 第四 山野ノ遺利ヲ拾ヒ有益ノ物産ヲ興ス
- 第五 博覽會共進會及物産陳列場出品ノ誘導
- 第六 獸醫術研究ノ誘導
- 第七 種苗交換及諸試驗ノ報告
- 第八 植物ニ付風雨虫害旱損等障得ノ報告
- 第九 農商工事ノ景況報告

廿年告諭第
三號ヲ以テ
本文ノ通改
正以下各條
モ同斷

第四條 勸業委員ハ郡長戸長ノ諮問ニ答或ハ自己ノ意見ヲ陳述スルモノトス其概目左ノ如シ

第一 水陸運輸ノ利害

第二 溝渠用悪水ノ疏通

第三 金融ノ通塞

第四 農商工水産山林礦山ノ利害及改良保護

第五 農商工水産山林礦山ニ關スル統計

第五條 勸業委員ハ一町村若クハ聯合町村ニ於テ開設スル勸業上各會ノ會員ニ加アルコトヲ得

第六條 勸業委員ニ月手當ヲ給ス可キ必要アルハ其手當及旅費日當事務取扱費ハ聯合町村費ヲ以テ支出スルモノトス

但縣廳ニ於テ召喚スル爲メ要スル旅費日當ハ此限リニアラス

第七條 前條月手當ハ一名金五圓以内トス

但每郡定員ニ對シ一名金五圓ヲ以テ積算シ其全額内ニ於テ互ニ増減支給スルハ妨ナシ

第八條 町村若クハ聯合町村ニ於テ勸業會商業會工業會又ハ農商工ヲ併合シタル勸業會其他全業會ヲ開設スヘシ

第二章 勸業會設置

第九條 前條ノ各會ヲ開設スルハ其町村若クハ聯合町村内農商工事ニ名望アル者ヲ撰舉シ會員

ヲラシムヘシ

第十條 各勸業會ハ農商工ノ事ヲ講究シテ改良進歩ヲ圖ルヘシ

第十一條 各勸業會ヲ開設セントスルモノハ規則ヲ編製シ縣令ノ認可ヲ受クヘシ

ノノ部 農工商

廿年告諭第
四號ヲ以テ
止撰法ヲ廢

但該會ノ費用町村費ノ支出ニ係ルモノハ町村會若クハ聯合町村會ニ於テ之ヲ議定シ承認ヲ經
タル後戶長或ハ郡長其規則ヲ設ケ認可ヲ受クルモノトス
第十二條 各勸業會ハ農商務卿及主務ノ官署ヨリ勸業上ノ事ニ付諮問アルキハ之ヲ審議シテ答上
スヘシ
第十三條 各勸業會ニ關スル費用ハ町村若クハ聯合町村ノ町村費ヲ以テ支辨シ又ハ關係各業者ニ
於テ協議支辨スルヲ得
但有志者ヲ以テ組織スルモノハ此限ニアラス
勸業委員撰舉順序

○告諭第五號

蠶業ノ隆盛ヲ期スル宜ク無毒精良ノ元種ヲ撰擇セサルヘカラス而シテ其精良ヲ圖ルハ梓製法ニ如
クハナシ今ヤ管下ノ蠶業漸ク盛大ヲ來シ蠶種ノ製造モ次第ニ増加スルニ際シ益精良ヲ圖ラサル可
ラサルハ勿論タリ抑梓製蠶種ノ平取種ニ勝ルノ著キハ近年各地ノ經驗ニ徵證シテ疑フ可ラサル實
蹟タリ當業者ニ於テハ宜ク茲ニ着目注意シ進テ改良ノ域ニ侵入センコトヲ勉ムヘシ
明治廿年七月四日
長野縣知事 木梨精一郎

○長野縣告諭第壹號

提造生糸卷紙ハ同業者一定ノモノヲ卷用スルハ取引上外商ノ信用ニ關シ最モ必要ニ有之然ルニ若
シ紙質紙量區々ニ涉リ或ハ不正ノ重量ヲ附スル如キ惡弊ヲ生シ候テハ自然商業上ノ信認ヲ失シ直

接ニハ正當營業者ヲ審シ間接ニハ國産ノ聲價ヲ墜シ容易ナラサル損害ヲ來スノ恐レアリ就テハ同
業者普ク申合セ紙質量目一定ノモノヲ卷用スヘシ
長野縣知事 淺田德則代理
長野縣書記官 小野田元淵
明治二十四年四月二十四日

○長野縣告諭第三號

蠶卵原種供用方ノ義ニ付テハ既ニ明治廿一年一月訓示ノ次第モ有之候處舊蠶絲業組合ニ於テハ之
ヲ遵守シ原種ハ必ス框製ニ限ルノ規約ヲ設ケタルヲ以テ同年度ハ概ネ框製トナリ該補欠トシ平製
ノ検査ヲ受ケタルモノ僅カニ諏訪下高井下伊那小縣ノ四郡ニシテ其數五百七拾七枚ナリ然ルニ廿
二年五月蠶絲業組合ヲ解散スルニ際シ原種ノ検査モ廢止サレタルヤニ誤認シタルモノ往々之レア
リ故ニ同年ニ於テハ廿一年ニ反對ノ結果ヲ現ハシ平製受檢ノ員數四千六百枚ノ多キニ至リ尙廿三
年ニ於テハ七千八百四拾四枚ノ多額ニ昇レリ之レニ加フルニ無賊框製ノモノ増加シ就中諏訪上高
井二郡ノ如キハ一層甚シカリシ如斯無賊框製ノ多キニモ拘ハラヌ廿三年框製検査ノ成績ハ廿二年
ニ比シ稍退歩ノ狀況ヲ呈セリ今廿年ヨリ廿三年ニ至ル顯微鏡的検査ノ歩合ヲ比較スレハ左ノ如シ

	二十年	二十一年	二十二年	二十三年
框製無毒歩合	四分七厘	六分五厘	七分四厘	七分三厘
同有毒歩合	五分三厘	三分五厘	二分六厘	二分七厘

ノノ部 農工商

平製無毒歩合	五分三厘	六分	七分五厘	八分二厘
同有毒歩合	四分七厘	四分	二分五厘	一分八厘

前記平製検査ノ成績ニヨレハ漸次良果ヲ告ルモノ、如シト雖モ其検査法ハ農商務省訓令第十四號第六項ニヨリ四分以内ヲ以テ合格トナスモノニシテ框製検査ニ比スレハ最不完全トス故ニ本年製造原種ハ有蛾框製トシ無蛾ハ平製検査ト同一ノ方止ムヲ得サル場合ノ外平製ヲ供用セサル様注意スヘシ

明治二十四年四月二十八日

長野縣知事淺田徳則代理
長野縣書記官 小野田元熙

○長野縣告諭第二號

縣下製産ニ係ル生絲提造ノ義ハ近來粗製濫造ニ流レ其甚キハ玉繭ヲ挽包ミ或ハ粗品ヲ包裝スルモノアリ此等不正ノ手段ヲ施スモノアルカ爲メ既ニ昨年外國ニ輸出セシ提絲ノ内更ニ之ヲ積戻セシモノ往々有之内外ニ對シ大ヒニ本縣下提絲ノ信用ヲ墜シ施テ正業者ノ不利ヲ招クコト少カラス今ニシテ之カ矯正改良ヲ加フルニ非ラサレハ殆ント該業ニ從事スル數萬ノ者其業務ヲ失フノ慘狀ヲ見ルニ至ルヘク因テ右等不正ノ所業アルモノニ對シテハ蚕絲業取締規則ニ依リ嚴重ニ之ヲ罰スヘクハ勿論ナリト雖トモ此業ニ從事スルモノハ宜シク全般ノ利害ヲ考ヘ相共ニ戒省シ適宜ニ團體ヲ組織シ製絲ノ精粗ヲ明ニシ可成揚聲場ヲ設置シ又ハ漸次器械製ニ改良スルノ方針ヲ採リ協

カ以テ此弊害ヲ矯正スルヲ勉ムヘシ

明治二十五年六月十七日

長野縣知事 淺田徳則

○クノ部

官有地

○長野縣令第三號

明治二十三年四月勅令第六十九號官有森林原野及產物特別處分規則第一條第二項ニ據リ開墾若クハ
牧畜ノ爲メ豫約賣渡ヲ出願スルモノハ左ノ手續ニ據ルヘシ

但此手續ニ據リ賣渡ノ豫約ヲ爲スハ原野ニ限ル

明治廿四年一月廿八日

長野縣知事 内海忠勝

官有原野豫約賣渡手續

第一條 豫約拂下願書ハ第一號書式ニ據リ二名以上ノ保證人ヲ立テ明治二十三年十二月十二號縣告示第
百三十二號ノ手續ニ據リ差出スヘシ

第二條 願書ニ添付スヘキ事業方法書ハ第二號書式收支豫算書ハ第三號書式實測圖面ハ第四號樣
式ニ據リ調製差出スヘシ

第三條 原野ノ賣渡ハ總テ豫約ノ方法ニ據リ代價ヲ納付シタル後ニアラサレハ其所有權ヲ拂受人
ニ移轉セサルモノトス其代價ハ事業成功ノ後拂受人ヨリ納付スヘシ若シ拂受人滯納スルキハ保
證人ヲシテ納付セシム

第四條 事業ノ全部成功セサルモ拂受人ニ於テ既成ノ部分ニ對スル所有權ヲ得ンコトヲ附求スル
トキハ其部分ニ相當スル代價ヲ納付セシメタル上之ヲ移轉スルヲアルヘシ

第五條 事業ノ成功期限ハ十五年巳内ニ於テ之ヲ定ムヘシ若シ天災其他止ムヲ得サル事由ニ依リ

中途拂受人ニ於テ豫定ノ事業方法又ハ成功期限ノ變更ヲ要スルトキハ更ニ事業方法書及收支豫算書ヲ添ヘ當廳ヘ出願許可ヲ受クヘシ

第六條 賣渡ノ豫約ヲ爲シタル土地ノ使用料等ハ總テ之ヲ徴収セサルモノトス

第七條 拂受人ハ左ニ記載スル事項ヲ遵守スヘシ

- 一 賣渡豫約ニ係ル土地ハ當廳ノ許可ヲ得ヌシテ之ヲ他人ニ貸渡スヲ得ス
- 二 賣渡豫約土地ニ對スル負擔及其土地ヨリ生ズル損害ニ就テハ拂受人其責ニ任スベシ
- 三 拂受人ハ賣渡豫約許可ノ日ヨリ滿六ヶ月巳内ニ豫定ノ方法ニ從ヒ事業ニ着手スヘシ
- 四 拂受人ハ前年ニ於ケル事業ノ功程ヲ翌年一月中ニ當廳ニ報告スヘシ
- 五 拂受人ニ於テ事業ニ着手シ及ヒ事業ヲ成功シタルトキハ十日巳内ニ當廳ニ報告スヘシ
- 六 賣渡豫約土地内ニ在ル木竹其他當廳ノ指定スル物件ハ拂受又ハ特別ノ契約ヲ爲スニアラサレハ拂受人ニ於テ之ヲ採取シ若クハ使用スヘカラス
- 七 官吏ヲ派遣シ事業ノ進否及ヒ方法ヲ検査セシムルトキハ拂受人ハ之ヲ拒ムヲ得ス
- 八 拂受人ハ賣渡豫約許可ノ日ヨリ十日巳内ニ標杭ヲ境界ニ建設スヘシ
- 九 事業ハ必ズ豫定ノ方法書ニ據テ之レヲ爲スヘシ
- 第十條 豫約賣渡ノ許可ヲ得タルモノハ其指令ヲ受ケタル日ヨリ二十日巳内ニ第五號書式ノ契約書ヲ提出スヘシ若クハ期限内ニ之ヲ差出サハルトキハ其許可ヲ取消スヲアルヘシ
- 第九條 拂受人第七條ニ記載スル事項ヲ遵守セス又ハ成功期限ニ至リ事業ヲ成功セサルトキハ豫定通り成功ヒル部分ニシテ相當代價ヲ納付シタルモノハ之ヲ除キ其他ハ總テ返還セシムヘシ
- 前項ノ場合ニ於テ返還地ニ係ル勞費ハ之ヲ辨償セス又返還地内ニアル植物建物等ハ期限ヲ定メ

之レヲ取拂ハシムヘシ

第十條 從前開墾牧畜ノ爲メ原野賣渡ノ豫約ヲ爲シタルモノニシテ既定ノ契約ナキ事項ハ總テ本手續ノ規定ニ據ルヘシ

第一號書式

官有原野豫約拂下願

何那何町村大字何々

何番字何

一官有原野反別何程

此實測反別何程 但立木(有)無

此素地相當代金何程

但置反歩ニ付何程

右官有原野開墾之上何々(牧場)ニ仕度候條豫約ノ方法ヲ以テ御拂下被成下度御許可ノ上ハ官有原野豫約賣渡手續堅ク遵守可致候依テ別紙事業方法書收支豫算書及實測圖面相添此段相願候也

年 號 月 日

何那何町村大字何々番地

願 人 何 某 印

全 保證人 何 某 印

全 保證人 何 某 印

第二號書式

長野縣知事宛

クノ部 官有地

七百四十七

開墾事業方法書

一 實測反別何程田又ハ畑ニ開墾 此成功 何少年

内

何反歩

初年開墾

何反歩

二年開墾

何反歩

三年開墾

何々

何々

何反歩

防風林又ハ薪炭林何樹、栽植

何反歩

家屋又ハ何々敷地

右之通相違無之候也

何郡何町村大字何

願人

何

某印

年 號 月 日

牧畜事業方法書

一 實測反別何程

牛又ハ馬牧場

此成功 何々年

内

何反歩

放牧地

何反歩

牧草仕付地

何反歩

家屋敷地

何反歩

畜舎又ハ何々敷地

一 西洋何種馬又ハ牛牡何頭何々此何頭ヲ以テ着手ノ毎年利息スヘキ豫定ノ頭數左ノ如シ

初年

馬又ハ牛何頭

二年

同

三年

同

四年

同

五年

同

惣數何頭

右之通相違無之候也

何郡何町村大字何々番地

願人

何

某印

年 號 月 日

第三號書式

收支豫算書

支出ノ部

金何程

開墾費 一反歩ニ付金何程

金何程

種苗費 何本數ニ付金何程

金何程

植付費 一反歩ニ付金何程

金何程

素地代價 一反歩ニ付金何程

金何程

肥料代 何々何貫目金何程

金何程

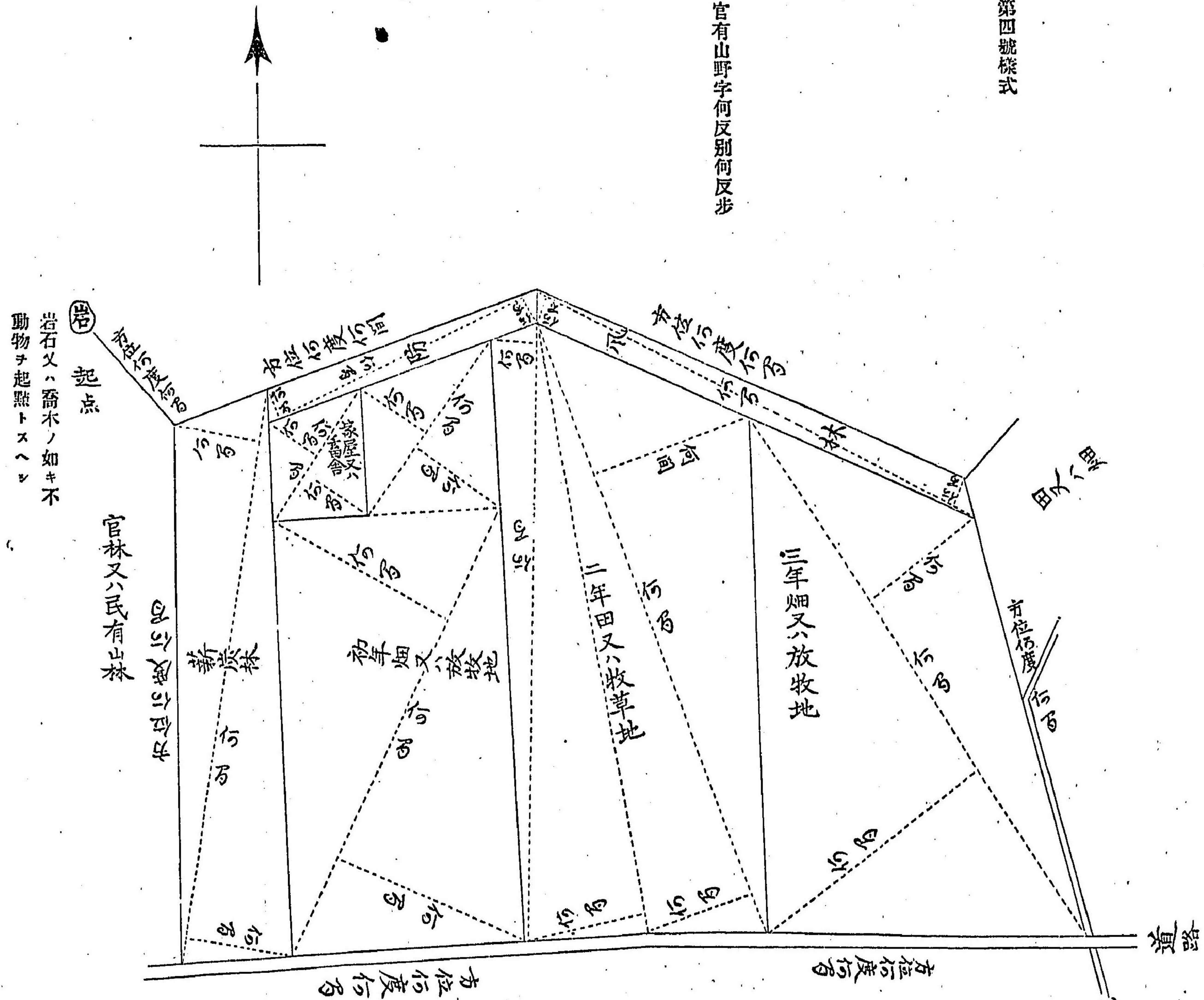
種畜何頭代 馬牛一頭ニ付金何程

官有地

金何程	同居	家屋舎等建設費
計金何程		
(費用ハ其算出ヲ詳記シ事業ノ數年ニ涉ルモノハ毎年度ニ區別スルヲ要ス)		
収入ノ部		
金何程	收穫物賣却代	米 麥 何 石 何 斗 壹
金何程	桑葉賣却代	何 實 目 何 程 目
金何程	産畜賣却代	何 頭 壹 何 頭 二 付
同 金何程	雜收入	牛 馬 何 頭 又 何 頭 賣 却 代 又 何
計金何程		
(收入ハ其算出ヲ詳記シ事業ノ數年ニ涉ルモノハ毎年度ニ區別スルヲ要ス又事業ノ方法ニ依リ成功ノ後直ニ收入ヲ得難キモノハ何年目ヨリ收入ヲ始ムル等明瞭記載ヲ要ス)		
右之通相違無之候也		
年 號 月 日	何 郡 何 町 村 大 字 何 々 番 地	
	願 人 何 何	某 印

第四號様式

官有山野字何反別何反歩



備考 一 筆ノ地所ヲ分割シ開墾セントスルトキハ道路若クハ河川ニ沿ヒタル一方ヨリシ濫リニ散點シテ着手スヘカラス

第五號書式

印紙 契約書

何番字何

何那何町村大字何

一官有原野反別何程

此拂下代金何程

一同

同

一同

同

前記ノ官有原野豫約拂下ノ義出願候處明治何年何月何日御許可相成候ニ就テハ明治廿四年一月縣令第三號官有原野豫約賣渡手續堅ク遵守可致候若シ其條項ニ違背スルトキハ御規定ノ通り處分セラル、モ聊異議無之候依テ保證人連署契約書差上候也

何那何町村大字何々々番地

願人 何 某印

年 號 月 日

シノ部 官有地

七百五十一

保證人	何	某印
同		
保證人	何	某印

長野縣知事宛

○長野縣令第四十二號
官有地貸渡手續左ノ通相定ム

但明治十九年五月第五十五號告示官有地貸渡規則ハ廢止ス

明治廿四年十月十五日

長野縣知事 淺田徳則

官有地貸渡手續

第一條 官ノ使用ニ供セサル官有地ハ期限ヲ定メテ貸付スルコトアル可シ

第二條 官有地ノ貸付ニ關シ此手續ニ規定ナクシテ他ニ規則アルモノハ總テ其規則ニ依ル

特別ノ事業ノ爲メ貸付スルモノニシテ特ニ其契約ニ規定アルモノハ仍ホ其條件ニ依ル

第三條 官有地ヲ借受ケントスル者ハ二人以上ノ保證人ヲ立テ第一號書式ノ願書ニ其地ノ圖面ヲ添差出ス可シ其圖面ニハ願地ノ區域境界四至ノ地形及ヒ地種目等ヲ詳記シ若シ樹木等アルトキハ其木數并ニ凡ソノ大サ種類等ヲ記載シタル形狀書ヲ添付ス可シ

一 町村共同ノ用ニ供スル爲メ町村會決議ノ上其町村ニ於テ借受ケントスルトキハ保證人ヲ要セ

第四條 貸付ノ許可ヲ得タル者ハ指令ノ日ヨリ十五日以内ニ第二號書式ノ借地證書ニ第三條ニ依

リ記載シタル圖面ヲ添差出ス可シ若シ正當ノ事故ナクシテ期限内ニ之ヲ差出ササルハ貸付ノ許可ヲ取消ス可シ但神社祭典市場開設等ニ際シ臨時使用ニ供スルモノハ此限ニ在ラス

第五條 官有地ヲ借受ケ地形ヲ變シテ使用セントスルモノハ出願ノ際其設計書ヲ差出シ併セテ許可ヲ受ク可シ

借用中地形ヲ變シ又ハ大修理工爲サントスルトキハ其都度許可ヲ受クヘシ

前二項ニ依リ許可ヲ得タルモノト雖モ滿期ニ至リ引續キ借用セントスルトキハ仍ホ第八條ノ手續ヲ爲スヘキモノトス

第六條 官有地ヲ貸付スヘキ期限ハ左ノ各項ニ依ル

一 樹木ノ培養ニ供スル土地ハ八十年以内

二 農工其他ノ營業及住居ニ供スル土地ハ三十年以内

第七條 貸付期間ノ計算ハ總テ曆ニ從ヒ年ヲ以テスルモノハ末年十二月盡日、月ヲ以テスルモノハ末月ノ盡日ヲ以テ期限トシ、日ヲ以テスルモノハ末日ノ盡時ヲ以テ期限トス但鑛業等滿年ヲ以テ許可ヲ得タル事業ニ附帶シテ貸付スルモノハ滿年トス

第八條 滿期ニ至リ引續キ借用セントスル者ハ其滿期ヨリ三ヶ月以前ニ第三條ノ手續ヲ以テ更ニ出願ス可シ但月若クハ日ヲ以テ設定シタル貸付契約ヲ繼續セントスル者ハ滿期前豫メ許可ヲ受ク可シ

前項ノ手續ニ依リ出願セサルモノハ滿期ニ至リ當然返地スヘキモノトシ繼續貸付ヲ許可セス又其地ヲ他ヘ貸付スルモノニ對シ異議ヲ唱フルヲ得ス

第九條 貸付期間中ト雖モ官ノ都合ニ因リ其貸付ヲ解除スルトキハ借受人ハ之ヲ拒ムヲ得ス前項

クノ部 官有地

ノ場合ニ於テ借受人ノ直接ニ受ケタル損失アルトキハ其請求ヲ待テ之カ賠償ヲ爲ス
第十條 前條ニ依リ損失ノ賠償ヲ得ントスルモノハ返地シタル日ヨリ六十日以内ニ申出可シ此期
日内ニ申出サルモノハ其要債權ヲ拋棄シタルモノト看做ス

第十一條 貸付期間中借受人ノ都合ニ因リ其契約ヲ解除セントスルトキハ三ヶ月以前ニ申出許可
ヲ受ク可シ但月若クハ日ヲ以テ設定シタル貸付契約ノ場合ニ於テハ解除セントスル期日前申出
深メ許可ヲ受ク可シ

第十二條 貸付料ハ近傍類地ノ價格ニ比準シ其百分ノ八以上トシ總テ評價ヲ以テ定ム但温泉地ハ
近傍類地ノ價格ニ依ルノ限ニ在ラス

既ニ貸付シタル土地ヲ第八條ニ依リ引續キ貸付スル場合ニ於テモ亦前項ニ依リ其貸付料ハ更ニ
評價ヲ爲スモノトス

第十三條 貸付料ハ借地證書差出ノ月ヨリ起算シテ之ヲ納ム可シ其日數ヲ以テ貸付タルモノハ初
日ヨリ之ヲ起算ス但特ニ期日ヲ指定シタルトキハ其期日ヨリ納ム可シ

第十四條 貸付料ハ總テ之ヲ前納ス可シ其貸付期限ノ數年ニ涉ルモノハ毎期ノ初メニ於テ之ヲ納
ム可シ

貸付料ノ徵收期ハ左ノ各項ニ據ル
一 年ヲ以テ設定シタル貸付ノ料金ハ甲年四月ヨリ乙年三月マテヲ以テ一期トシ甲年四月中ニ
徵收ス但四月以後新ニ貸付タルモノハ初期分ニ限り契約設定日ヨリ三十日以内ニ徵收ス

二 月又ハ日ヲ以テ設定シタル貸付ノ料金ハ契約設定ノ日ヨリ三十日以内土地使用前ニ徵收ス
第十五條 貸付料ノ徵收額算定方ハ左ノ各項ニ據ル

一 年ヲ以テ設定シタル貸付ノ四月ニ起リ若クハ三月ニ滿期トナルモノハ全年分ヲ算定シ五月
以後ニ起リ若クハ二月以前ニ滿期トナルモノハ月割ヲ以テ算定ス

二 月ヲ以テ設定シタル貸付ハ初月終月ヲ間ハス總テ全月分ヲ算定ス

第十六條 貸付料ヲ徵收期限内ニ納入セザルトキハ其貸付ヲ取消ス可シ
前項貸付ヲ取消シタル場合ト雖モ其取消以前使用中ニ係ル料金ハ之ヲ納メシム

第十七條 貸付期間中其契約ヲ解除シタルトキ料金免除方ハ左ノ各項ニ據ル
一 年又ハ月ヲ以テ設定シタル貸付ヲ官ノ都合ニ因リ解除シタルハ其月ヨリ免除シ借受人ノ
都合又ハ契約違反ニ因リ解除シタルトキハ其翌月ヨリ免除ス

二 日ヲ以テ設定シタル貸付ヲ解除シタルトキハ官ノ都合又ハ借受人ノ都合若クハ契約違反ニ
因ルトキ間ハ其日ヨリ免除ス

第十八條 借受人ハ特ニ許可ヲ受クルニ非サレハ其地ヲ當初借用ノ目的以外ニ使用スルコトヲ得
ス

前項ノ規定ニ違反スルトキハ借受人ヲシテ其使用ヨリ生シタル損害ヲ賠償セシメ仍ホ其貸付ヲ
取消スコトアル可シ

第十九條 借受人ハ其借地權ヲ賣渡シ讓渡シ又ハ抵當ト爲スコトヲ得ス
借受人ハ特ニ許可ヲ受クルニ非サレハ其借用地ヲ轉貸スルコトヲ得ス又許可ヲ得テ轉貸ヲ爲シ
タル場合ト雖モ其義務ハ總テ免カルハコトヲ得ス

前項轉貸ノ場合ニ於テ借受人カ遵守スヘキ事項ハ總テ轉借人ニ於テモ亦之ヲ遵守ス可シ
第二十條 借用中其地ニ對スル修理其他一切ノ費用ハ借受人ニ於テ之ヲ負擔ス可シ

ノ部 官有地

七百五十五

第二十一條 契約違反ニ因リ貸付ヲ取消シタルトキ其地ニ對シ如何ナル勞費アルモ官ニ於テ之カ補償ノ責ニ任セス

第二十二條 借受人官ノ許可ヲ得テ土地ノ原形ヲ變シタルトキハ借地満期ニ至リ盡日マテニ自費ヲ以テ之ヲ原形ニ復シ返納ス可シ其期間中契約ヲ解除スルトキハ特ニ指定スル期日マテニ原形ニ復ス可シ但官ニ於テ原形ニ復スルニ及ハスト認ムルトキハ現形ノ儘据置キ返地ヲ許可スルコトアル可シ

借受人前項ニ依リ原形ニ復ササルトキハ官ニ於テ直ニ原形ニ復シ之カ費用ヲ辨納セシム可シ地況ニ依リ原形ニ復シ難キモノハ現形ノ儘据置キテ許可スルコトアルモ此場合ニ在テハ其損失ヲ賠償セシム可シ

第二十三條 本手續ノ規定ニ依リ許可ヲ受クヘキ場合ニ於テ其許可ヲ受ケヌ又ハ契約ノ事項ニ違背シタルカ爲メ其土地ニ對シ損失ヲ生シタルトキハ各條項中特ニ明規アルモノ、外仍借受人ヲシテ之ヲ賠償セシム其貸付ヲ取消スコトアル可シ

第二十四條 借地人ハ特別ノ許可ヲ受クルニ非サレハ借地内ニ生立スル官有木竹其他特定ノ物件ヲ使用シ又ハ採收スルヲ得ス

第二十五條 借地人ハ借地中前條ノ木竹其他特定ノ物件ヲ看守シ及ヒ保存スルノ責ニ任ス可シ借地人ハ前項ノ木竹其他特定ノ物件ニ對シ第三號ノ書式ニ依リ保管證書ヲ借地證書ト同時ニ差出ス可シ

本條ノ保管ニ要スル費用ハ借地人ノ負擔トシ官ニ於テハ之カ補償ヲ爲サス

廿五年勅令
第五十二號
以下第二十七條迄追加

償ス可シ

但天然ノ事變ニ因リ生シタルモノハ此限ニ在ラズ

第二十七條 前條ノ損害ガ借地人ノ故意ニ出タルトキハ土地ノ貸付ヲ取消ス可シ

一 第二號書式ノ次ヘ左ノ書式ヲ加フ

第三號書式

紙 印

保管證書

何郡何町村大字何番字何

官有何地反別何程内ニ生立

一 官有何木 (竹) 何本 但日廻廻何尺何寸

一 全 何木 何本 但全上

合計何本

(但別紙明細取調書ノ通) (木竹數多キトキハ日廻長ヲ)

一 官有何々 何程

右官有地借地許可相成候ニ付テハ右官地上ニ現存スル前記ノ物件官有地貸渡手續ニ從ヒ毀損セサル様保管可致候若シ保管ノ物件ニ損害ヲ生シ候ハ、總テ賠償可致仍ホ御規定ニ依リ處分セラシム、モ聊異議無之候依テ保証人連署保管證書差出候也

借地人住所

官有地

七百五十七

第五十三號令
明治二十三年
以下

年月日

何 某印
保證人住所
何 某印
保證人住所
何 某印

七百五十八

長野縣知事宛

第二十八條 借受人其義務ヲ盡サ、ルトキハ保證人ニ於テ總テ其責ニ任ス可シ
第二十九條 官ニ屬スル私有水面ノ貸付ニ付テモ此手續ニ據ル可シ
官ニ屬スル私有水面ノ有料使用ニ付テモ亦此手續ヲ準用ス但本項ノ使用期限ハ十五年以内トス
第三十條 明治二十四年四月一日以前ニ貸付ノ契約ヲ爲シタルモノハ滿期マテ總テ舊契約ニ依ル
可シ其滿期ニ至リ引續キ借用セントスルモノハ此手續ニ依リ出願ス可シ
明治二十四年四月一日以後本手續發令マテニ貸付ノ契約ヲ爲シタルモノハ此手續ニ依リ更ニ契
約ヲ爲ス可シ

第一號書式 (正副二通)
官有地借用願

何郡何町(村)(大字何)

何番字何

一官有地反別何程

此假價格金何程

此借地料金何程 但一ケ年(一ケ月又ハ一日)分
右地所何々(使用ノ目的ヲ)ニ用候爲メ何ケ年間(又ハ何月何日迄又ハ何月何日迄等明記ス可シ)借用仕度候間御許
可被成下度御許可ノ上ハ官有地貸渡手續ヲ遵守可致候依之繪圖面(設計書)相添此段相願候也
何縣何郡何町村大字何何番地
借地願人 何 某印
同
保證人 何 某印
同
保證人 何 某印
何郡何町村長 何 某印

第二號書式

長野縣知事宛

借地証書

印紙

何郡何町(村)(大字何)
何番字何
一官有地反別何程
此借地料金何程 但一ケ年(一ケ月又ハ一日)分

官有地

七百五十九

此借地期限明治何年ヨリ何ケ年(何ケ月又ハ何日間又ハ何年何月ヨリ何年何月迄等明記ス可シ)

使用ノ目的何々々
右地所借用ノ義前記ノ通相定メ出願候處明治何年何月何日長野縣指令第何號ヲ以テ御許可相成候ニ就テハ明治廿四年十月縣令第四十二號官有地貸渡手續中借受人ノ遵守スヘキ條項ハ總テ堅ク遵守可致候若シ其條項ニ違背スルトキハ御規定ノ通處分セラル、モ聊異議無之候依テ保證人連署借地證書差上候也

年 號 月 日

何縣何郡何町何村大字何何番地
借地人 何 某印

同 保証人 何 某印

同 保証人 何 某印

長野縣知事宛

〇〇第二十四號

水車ヲ建築セントスル者ハ自令別紙手續ニ照準出願可致此旨相達候事

郡 役 所
戸 長 役 場

明治十五年二月廿一日

長野縣令 大野 誠

水車建築手續書

第一條 水車ヲ建築セントスル者ハ水理ニ關係ノ上下流村々へ協議ヲ遂ケ町村會開設ノ町村ハ戶長調印水理ノ形狀及設置スヘキ場所明瞭ノ繪圖面相副へ第一號二號書式ニ照準願出ツヘシ

但町村會開設無キ場所ハ土木起功總代連署スヘシ

第二條 官有地第三種ノ土地へ建築セントスル者ハ當廳明治十一年乙第九十五號達ニ照準借地願書ヲ調製シ第一號建築願書ト共ニ差出スヘシ

但繼年季ヲ要スル者ハ其年季繼テ願出ル迄ニテ第一條ノ手續ヲ要セサルヘシ

第三條 民有地へ建築セントスル者ニシテ他人ノ地所ヲ借用スル者ハ其所有主連印第二號書式ニ照準願出ヘシ

第四條 前數條ノ手續ヲ經テ願出ツル者ハ實地檢査ノ上許可スヘシ

但實地檢査ノ上水理ニ妨害アルト認ルカ又ハ他ニ支障アレハ許可セサル事アルヘシ

第五條 許可ヲ得スシテ建築スルニ於テハ其官有地ハ之レヲ返還セシメ民有地ハ該水ノ使用ヲ差止其水上ニ係ルモノハ取拂ハシムヘシ

第一號

水車建築願書

信濃國何郡何町

何川筋何堰

何番

何河何堰水流ヨリ水路ヲ開キ
使用スル者ハ其旨附書スヘシ

クノ部 官有地

官有地

一筆ノ内ヲ區分シテ借用スル者ハ官有地ノ下ニ何段何畝歩ノ内ト記スヘシ

一何反別何程

右地所へ今般水車建築致度流上流下村々へ協議ヲ遂ケ候處聊カ故障等無之因テハ御廳明治十一年乙第九十五號御達ニ準シ該地借地願別紙之通差出御許可ノ上ハ建築致シ度繪圖面相添一同連署此旨相願候也

信濃國何那何町村

華士族平民

年月日

願人

何

之

誰印

土木起功總代

何

之

誰印

戸長

何

之

誰印

同國何郡

何川何堰上流

土木起功總代

何

之

誰印

何村戸長

何

之

誰印

同國何郡

何川何堰下流

土木起功總代

何

之

誰印

何村戸長

何

之

誰印

縣令宛

第二號

水車建築願書

信濃國何那何町村

何川筋何堰

字何番

民有地

何河何堰本流ヨリ水路ヲ開キ

使用スル者ハ其旨用書スヘシ

一筆ノ内ヲ區分シテ借用スル者ハ民有地ノ下ニ何反何畝歩ノ内ト記スヘシ

一何反別何程

右地所へ今般水車建築致度流上流下村々へ協議ヲ遂ケ候處聊カ故障等無之因テ別紙繪圖面相添此旨相願候也

信濃國何那何町村

華士族平民

願人

何

之

誰印

同國何郡何村

何番地主

何

之

誰印

土木起功總代

何

之

誰印

戸長

何

之

誰印

何國何郡

何川何堰上流

年月日
第三條ニ據クル土地所有者ハ願人ノ次へ下項ノ如ク記入調印スヘシ

官有地

國稅意納處
分法等ノ改
正ニ依リ消

○乙第二百二十七號

縣令宛

郡役所

土木起功總代 何之誰印
何村戶長 何之誰印
同國何郡
何川何堰下流
土木起功總代 何之誰印
何村戶長 何之誰印

七百六十四

國稅地方稅意納者所有ノ土地公賣處分ニ際シ買受望人無之ヨリ官沒候時ハ甲月處分ノ分乙月五日
限左ノ表式ニ據リ調理ノ上報告スヘシ此旨相達候事
但既ニ處分済ノモノハ本文表式ニ據リ取調來ル三十日限リ報告スヘシ

明治十八年十月十四日

長野縣令 木梨精一郎

官沒土地報告表

(二縣以上ナル時ハ
合計ヲ記載スヘシ)

何年何月何日	何那何村字何	何番	何目	何町何反	何畝何歩	何町何十何段	何那何村之誰
何年何月何日	地名	地番	地目	反別	稅目	意納金額	意納者在籍姓名

合計

右及報告候也

年月日

縣令宛

何郡長 何之誰

○長野縣訓令第百二十六號

原野豫約拂下願書ハ本年七月農商務省訓令第三拾四號第三條ニヨリ必ラス書留郵便ヲ以差出ヘキ
様取扱フヘシ
明治廿三年九月八日
長野縣知事 內海忠勝

○長野縣訓令第百七十四號

官有地下ケ渡拂下并ニ民有地買上及ヒ寄附土地等ニ係ル土地登記請求ニ關スル取扱方手續左之通
心得ヘシ
明治廿三年十二月五日
長野縣知事 內海忠勝

第一項 官有地下ケ渡并ニ拂下ニ係ルモノハ其處分違或ハ指令到達ノ日ヨリ五日以内ニ登記法第七條第廿五條第廿六條第廿八條第三項ノ手續ヲ盡シタル登記請求書ヲ徴シ之レヲ差出スベシ

官有地

七百六十五

第二項 民有地寄附并ニ土地等ニ屬スル願書ヲ差出タル時ハ直稅分署土地臺帳ニ一筆限リ對照其旨ヲ明記シ差出スヘシ但シ土地分割ニ係ルモノハ直稅分署へ協議シ地番分號ヲ記入スヘシ

○長野縣訓令第七十五號

郡 役 所
町 村 役 場

町村長ニ於テ官有原野豫約拂下ニ付本年^{十月}廿二告示第三百三十二號ノ屆書ヲ受理シタル日ハ二日以内ニ圖面ノ正否公益上ノ利害ヲ審查シ意見ヲ附シ所轄郡衙ヲ經由知事ニ具申スヘシ
明治廿三年十二月八日
長野縣知事 内海忠勝

○長野縣訓令第三百二十三號

郡 役 所
町 村 役 場

本年^{十月}縣令第四十二號官有地貸渡手續ニ依リ借地願書ヲ差出シタルモノアルトキハ地元町村長ハ左ノ事項ニ付詳細取調該願書ト共ニ差出ス可シ
明治廿四年十月十六日
長野縣知事 淺田徳則

- 一 出願ニ對シ地元町村及關係者ノ故障ノ有無
- 二 出願ニ係ル土地近傍類地ノ實際賣買價格其地番地目反別及地價
- 三 願書ニ記載アル假價格ノ當否

○長野縣達甲第六號

郡 役 所
町 村 役 場

- 一 地盤ノ官有ニ屬スル堤塘道路並木敷ノ使用ハ自今其費用ヲ負擔スル町村ニ於テ處分スヘシ但處分方ノ義ハ前以テ當廳ノ認可ヲ請フヘシ
 - 一 前項堤塘道路並木敷使用料及堤塘道路用悪水路土居敷等ニ屬スル竹木其他ノ收益ハ其費用ヲ負擔スル町村ノ收入ニ屬スヘシ
 - 一 費用ノ主撥定ラサルカ又年々負擔ヲ異ニスル堤塘道路並木敷用悪水路土居敷等ニ關スル事項ハ所屬町村ニ於テ處分方當廳へ申出ツヘシ
 - 一 地盤ノ町村有ニ屬スル堤塘ノ使用及堤塘ヨリ生スル收益等ハ町村ノ管理ニ歸スヘシ
- 明治廿四年六月十日
長野縣知事 淺田徳則

○長野縣達甲第百拾七號

郡 役 所

官有地ヲ道路河川堤塘等ノ公用ニ供セントスル時ハ其要スル事由ヲ詳具シタル願書ニ漬地調書及ヒ圖面添付差出スヘキ旨郡内町村役場へ達方取計フヘシ
但民有地ト運帶スルモノハ其民地ノ分ニシテ所轄郡役所ノ許可ヲ得タルモノハ願書ニ其許可年月日符號等ヲ併記スヘシ

官有地

明治廿四年七月八日

長野縣知事 淺田德則

七百六十八

○長野縣達甲第百二十號

其郡日野村大字村山内官有地百拾貳番乃至百拾四番ノ三筆ハ舊慣之通其村大字相之島用水門普請用ニ供スル公有地ニ候條其旨心得ヘシ

明治廿五年七月四日

長野縣知事 淺田德則

○長野縣達甲第百二十一號

其村大字村山内官有地百拾貳番乃至百拾四番ノ三筆ハ豐洲村大字相之島用水門普請ニ供シアル土地ニ候條其旨心得大字村山ハ達スヘシ

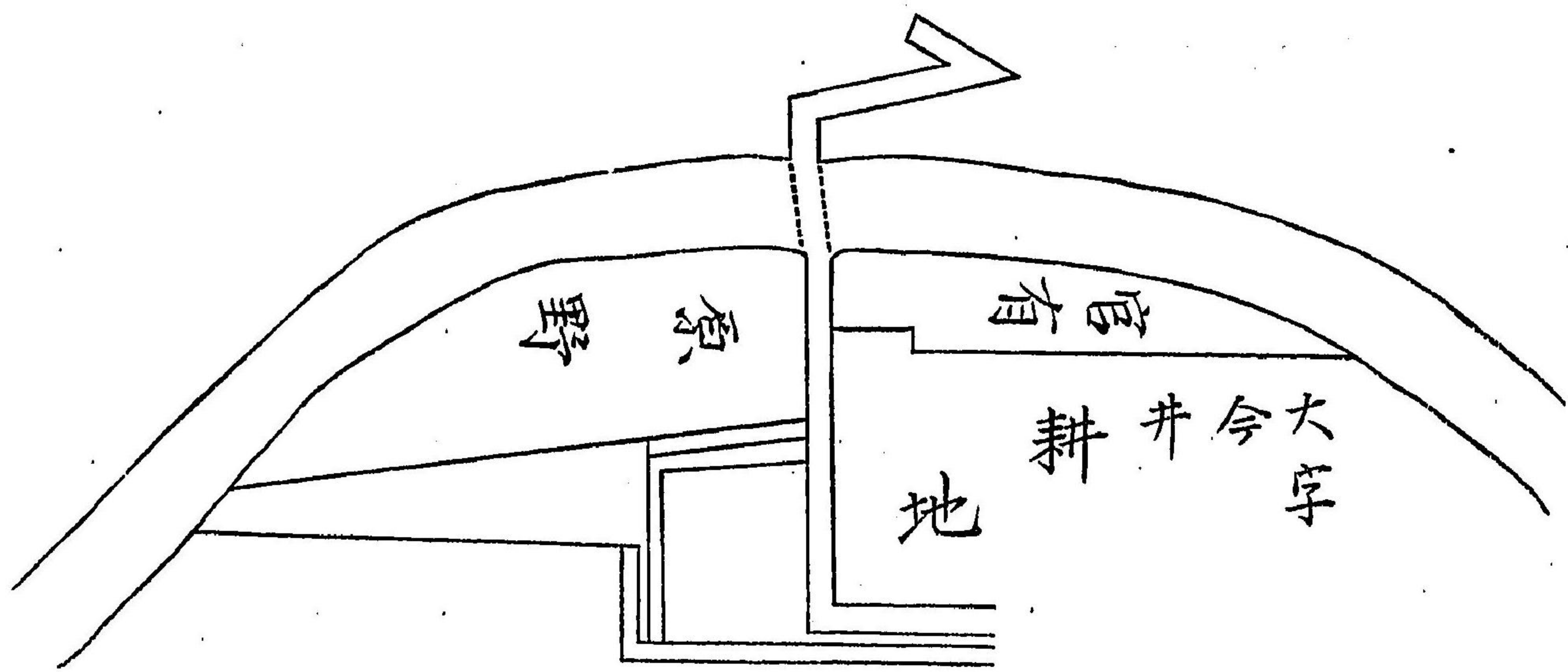
明治廿五年七月四日

長野縣知事 淺田德則

○長野縣達甲第百五十六號

將來町村費負擔ニ係ル官有里道用懸水路溜池敷トシテ直チニ民有地ヲ寄附スルモノアル時ハ其寄附ノ際寄附物品價格ヲ地元町村長ニ於テ取調付記セシムヘシ 寄附願書若クハ地租組換願書ニ添付シ差出候様取扱フベキ旨達方取計フヘシ

郡 役 所



但本文價格調書ニハ寄付人本籍住所位勳職名族籍姓名ヲ詳記セシムヘシ
明治二十五年九月二十八日 長野縣知事 淺田徳則

○長野縣達乙第二百五十八號

北佐久郡高瀬村
鷹野半次郎

北佐久郡高瀬村大字今井字川原田八百六十七番地反別貳反壹畝五歩ハ既定官有地ニ付使用スルヲ
許サス

但形狀圖面壹葉添付ス
明治二十五年十一月十九日

長野縣知事 淺田徳則

クノ部 官有地

七百六十九

○戊第十一號

今般陸軍省所轄土地家屋貸渡規則別紙之通被相定候條此旨告示候事

長野縣令木梨精一郎代理

長野縣大書記官 鳥山重信

明治十九年二月一日

陸軍省所轄土地家屋貸渡規則

第一條 陸軍省所轄ノ土地家屋等一時使用セサルモノハ此規則ニ因リ人民ニ貸渡スヘシ

第二條 土地家屋等借用セントスル者ハ所管工兵方面若クハ所在府縣廳ノ許可ヲ得實地一覽ノ上

其使用ノ目的ヲ詳ニシ借用期限ヲ定メ畧圖及ヒ借料金取調書ヲ添ヘ府縣廳ニ出願スヘシ

第三條 府縣廳ニ於テ前條ノ願ヲ受ケタルトキハ其借料金等ノ當否ヲ調査シ不都合ナキモノハ該

地所管ノ工兵方面ニ協議ヲ遂ケ其許諾ヲ得タルトキハ願人ヨリ借用證書圖面及ヒ明細書各貳通

ヲ出サシメ其一通ハ府縣廳ニ止メ置其一通ニ府知事縣令添書シテ工兵方面ニ送附スルノ後願人

ニ貸渡スヘシ

第四條 地所家屋等貸渡中保存修繕ハ勿論一切ノ掃除トモ借受人ニ於テ負擔スヘシ

但天災地變地震洪水暴風ニ因リ大破ヲ生ジ借受人ニ於テ修繕ヲ加ヘ難キトキハ速ニ府縣廳ニ届出

テ府縣廳ヨリハ所管ノ工兵方面ニ移牒スヘシ工兵方面ニ於テハ修繕ヲ加ヘ又ハ返附ヲ命スル

トアルヘシ

第五條 借料金ハ近隣ノ地主或ハ家主ノ收納額ヲ基本トシ其地内ニ產出物桑葉蠶繭アルトキハ豫

メ其收穫高ヲ量リ調査スヘシ

官有地

七百七十一

但家屋ノ借料金ハ借用中施スヘキ修繕費ヲ除去シ其殘額ヲ以テ定ムヘシ

第六條 借用中家屋建築樹木栽植ハ之ヲ許サス
但使用ノ目的ニ因リ速ニ取除ケ易キ假屋建築苗木栽培等ハ許スヲアルヘシ故ニ之ヲ要スルト
キハ府縣廳ヲ經テ所管ノ工兵方面ニ出願スヘシ

第七條 借用中建物解除樹木伐採及ヒ土地家屋ノ形狀變換等ヲ爲スコトヲ許サス若シ樹木立枯倒
木等アルトキハ府縣廳ニ届出テ府縣廳ヨリハ所管ノ工兵方面ニ通報スヘシ

第八條 借受人ハ其土地家屋等他ニ貸渡スコトヲ許サス故ニ若シ一人ニテ借用ナシ難キ場所ハ其
區域ヲ定メ數人連署ニテ出願スヘシ

第九條 貸渡期限ハ滿十二箇月ヲ一期トシ第三期即チ滿三十六ヶ月迄ハ貸渡スコトアルヘシ其滿
期後繼續借用セントスルモノハ尙三期以內ノ期限ヲ定メ府縣廳ニ出願スヘシ府縣廳ニ於テハ更
ニ工兵方面ニ協議ヲ遂ケ然ル後願人ニ貸渡スコトス

但陸軍省ニ於テ使用スヘキ事項ヲ生シタルトキハ貸渡期限内ト雖モ返附セシムヘシ

第十條 前條繼續借用ヲ出願スルハ滿期一箇月以前ニ於テスヘシ其以後ニ出願スルモノハ貸與ヲ
許サス

第十一條 土地家屋等貸渡中其町村ニ係ル協議費ハ總テ借受人ニ於テ支辨スヘシ

第十二條 土地家屋等貸渡中時トシテ工兵方面官員巡回検査ヲ保存ニ關スル修繕不行届ノ箇所ア
レハ差圖シテ修繕セシムルヲアルヘシ若シ其差圖ニ從ハサルトキハ工兵方面ニ於テ修繕ヲ加ヘ
其費金ハ借受人ヨリ辨償セシム

第十三條 前諸條ニ掲ケタル規則ニ背反スルモノハ貸渡期限内ト雖モ返附セシムルヲアルヘシ

第十四條 貸渡期限内ニ於テ土地家屋等返附セシムルトキハ違書到達ノ日ヨリ日數二十日限り私
有物ヲ取拂フモノトス若シ其期限内ニ於テ取拂ハサルトキハ私有物ト雖モ官ニ於テ處分シ私有
ノ權利ヲ主張スルコトヲ許サス

但非常ノ際ハ本文ノ日限ニ拘ハラズ直ニ返附セシムルコトアルヘシ

第十五條 貸渡期限内ニ於テ返附セシムル時ト雖モ手當金等一切支給セサルモノトス
但陸軍省ニ於テ使用ノ爲メ返附セシムルトキハ其月ノ借料金收納ヲ免除ス

第十六條 土地家屋等借用期限滿ルトキハ府縣廳ニ届出テ府縣廳ニ於テハ圖面及ヒ明細書ニ照シ
テ検査ヲ遂ケ不都合ナキトキハ其旨所管ノ工兵方面ニ通報スヘシ

第十七條 土地家屋等借用期限内事故アリテ返附セントスル者ハ其旨府縣廳ニ届出テ府縣廳ニ於
テハ前條ノ手續ヲ爲シ其事由ヲ速ニ所管ノ工兵方面ニ通報スヘシ

第十八條 土地家屋等ヲ返附シタルトキハ其借用證書圖面及ヒ明細書ヲ下付スヘシ

借料金取調書
陸軍省御所轉何國何郡何町何番地(或ハ何番)
一地積幾何
此借料金滿一箇年幾何
一何造何家何棟合建坪幾何
此借料金滿一箇年幾何 但外ニ金幾何修繕費見込
一土藏(或ハ)何棟合建坪幾何
此借料金

官有地

合計一箇年借料金高幾何 但一箇月金幾何宛

一何々收獲高幾何

此拂下料幾何 但何程ニ付 金幾何ノ見込

以上

右ハ近隣地(家)主ノ收納額ヲ基本トシテ借料金取調候也

何府縣何郡何村何番地居住(寄留)

年月日

拜借願人 姓 名 印

保證人 同 姓 名 印

前書之通相違無之候也

年月日

戶長 姓 名 印

當府(縣)管下何國何郡(區)何町(村)何番地陸軍省所轄地(或ハ所轄)面積幾何(何棟)何某借用願之通明治何年何月ヨリ何年何月マテ滿何年間貸渡方取計諸事不都合無之様注意可致候依テ別紙本人拜借證書及明細書圖面及御送附候也

年月日

何府知事(何縣令) 姓 名 印

工兵第何方面提理姓名殿

借用證書書式

印紙

地所(家屋)拜借證書

陸軍省御所轄何國何郡何村何番地(或ハ所轄)面積幾何

一 此拜借料滿一箇年ニ付幾何

一 建家何棟合建坪幾何

此拜借料滿一箇年ニ付幾何

右ハ何々ニ使用ノ爲メ御許可ヲ得テ明治何年何月ヨリ同何年何月マテ拜借仕候然ル上ハ明治十八年十二月陸軍省達甲第五十二號御達陸軍省所轄土地家屋貸渡規則堅ク相守可申且拜借料金ハ御指圖次第速ニ上納仕候依テ別紙圖面及ヒ明細書相添拜借證書如斯御座候也

年月日

何府(縣)何郡何村何番地居住(寄留) 拜借人 姓 名 印

工兵第何方面提理姓名殿

前書之通相違無御座候拜借人某ニ於テ陸軍省御規則ニ背戻ノ所業ハ勿論萬一借料金不納之節ハ私共引受總テ不都合無之様取計可申候依テ保證如斯御座候也

何府(縣)何郡何村何番地居住 保證人 姓 名 印

前書之通相違無之候也

年月日

戶長 姓 名 印

保證人ハ陸軍省所轄地近傍ニ居住シ其府縣在籍ノ者ニシテ證人タル資格ヲ有スル者ニ名以上ヲ要ス

ノノ部

官有地

明細書式

明細書

別紙圖面朱線内

一合面積幾何

内

地積幾何

池(沼)幾何

石磚ノ類ハ箇數石壇土壘ノ如キハ横巾高サ長延間尺ヲ記載スヘシ

一何樹 目通何尺以上 幾本

樹木ハ種類ヲ分テ各種類毎ニ記載スヘシ幹數記載ナシ難キ苗木又ハ桑茶竹數ノ如キハ株數或ハ地坪ヲ記載スヘシ

何造家別紙圖面之通行行幾間梁間幾間幾棟

一合建坪幾何

内

何々家建坪幾何

但 圖面ニ記シ難キ附屬品アルモノハ廉限リ此所ニ記スヘシ 附屬ス

何々幾何

同種類ノ建家ニシテ附屬品モ亦同一ナルモノハ圖面ニ番號ヲ附シ何號ヨリ何號ニ至ル幾棟ト記載スルモ妨ナシ

一何柳(何垣)幾間
一井戸 幾箇

但 家形附幾箇敷石幾坪附幾箇ト記スヘシ

右ノ外門扉其他ノ附屬モノトモ廉限リ記載スヘシ

右之通相違無御座候也

年月日

拜借人 姓

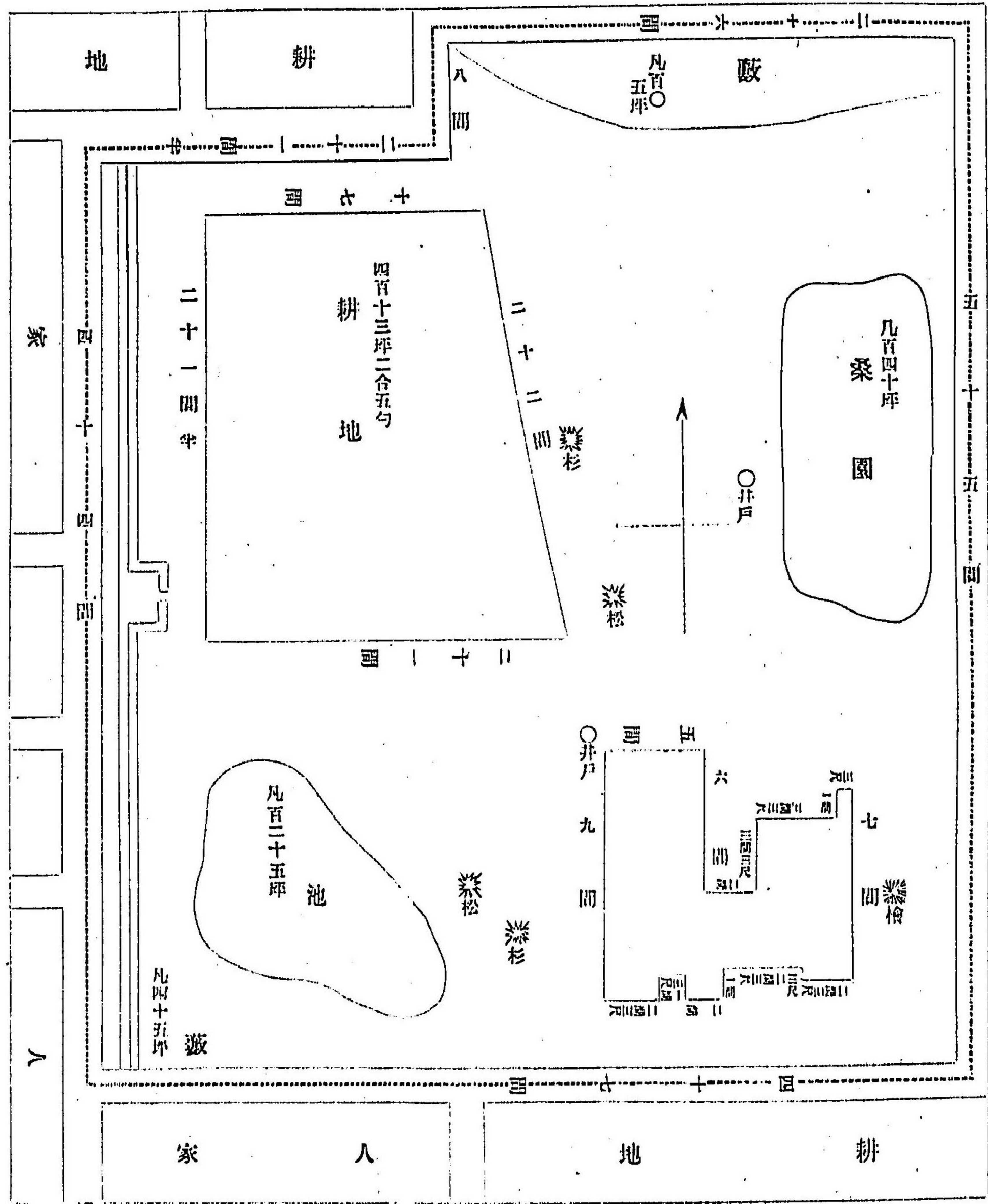
保證人 姓

名 名
印 印

クノ部 官有地

七百七十七

借用地製圖式
陸軍省御所轄何國何郡何村何番地ノ圖



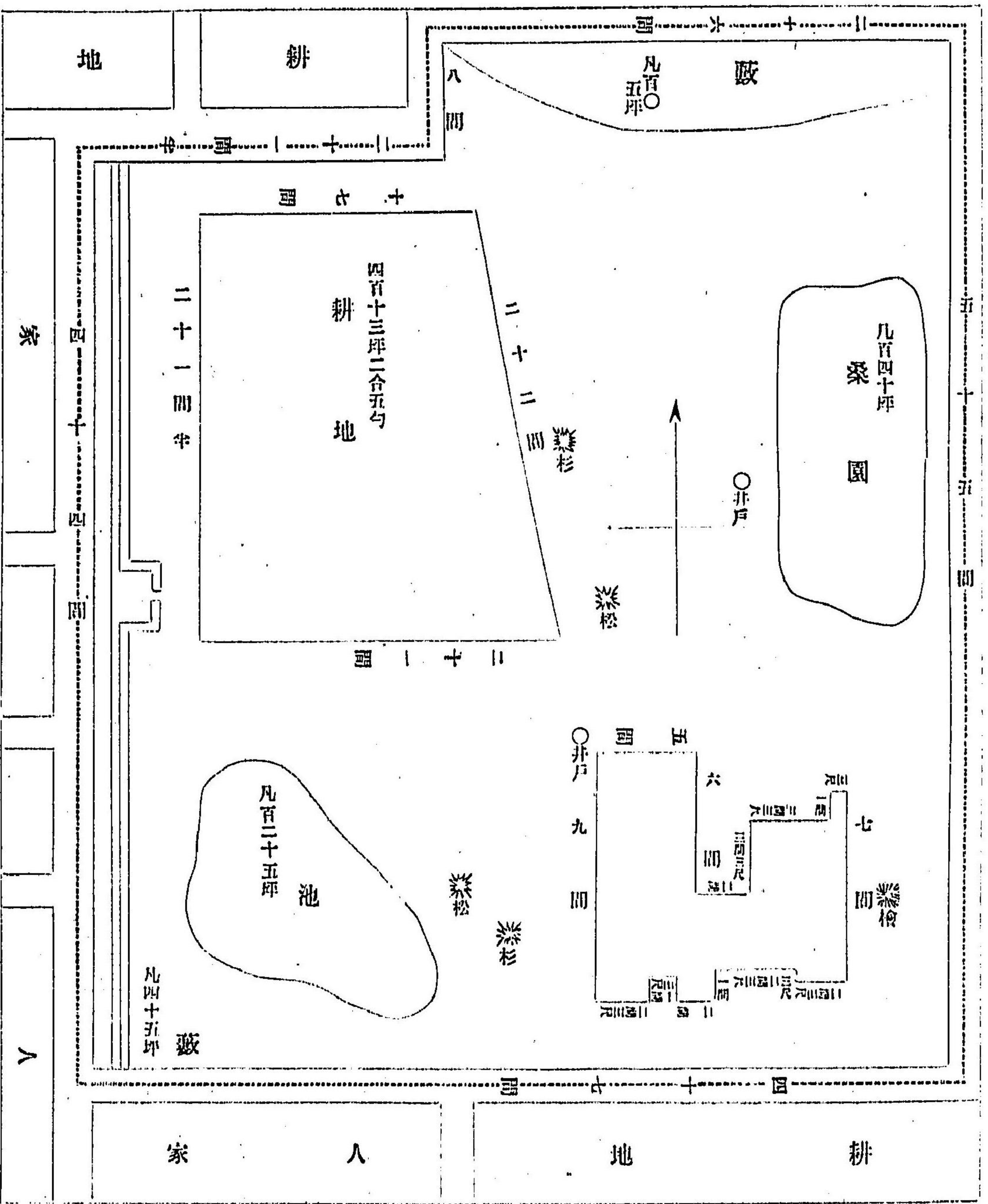
製圖凡例

- 一 借用地ノ區域ハ朱線ヲ畫シ各直線ニ間數ヲ記載シ且方位ヲ示スヘシ
- 一 樹木石壇土壘ノ如キハ其位置ヲ示シ耕地桑田茶園敷池等ハ其敷地ニ各着色ヲ爲スヘシ

借用地製圖式

陸軍省御所轄何國何郡何村何番地ノ圖

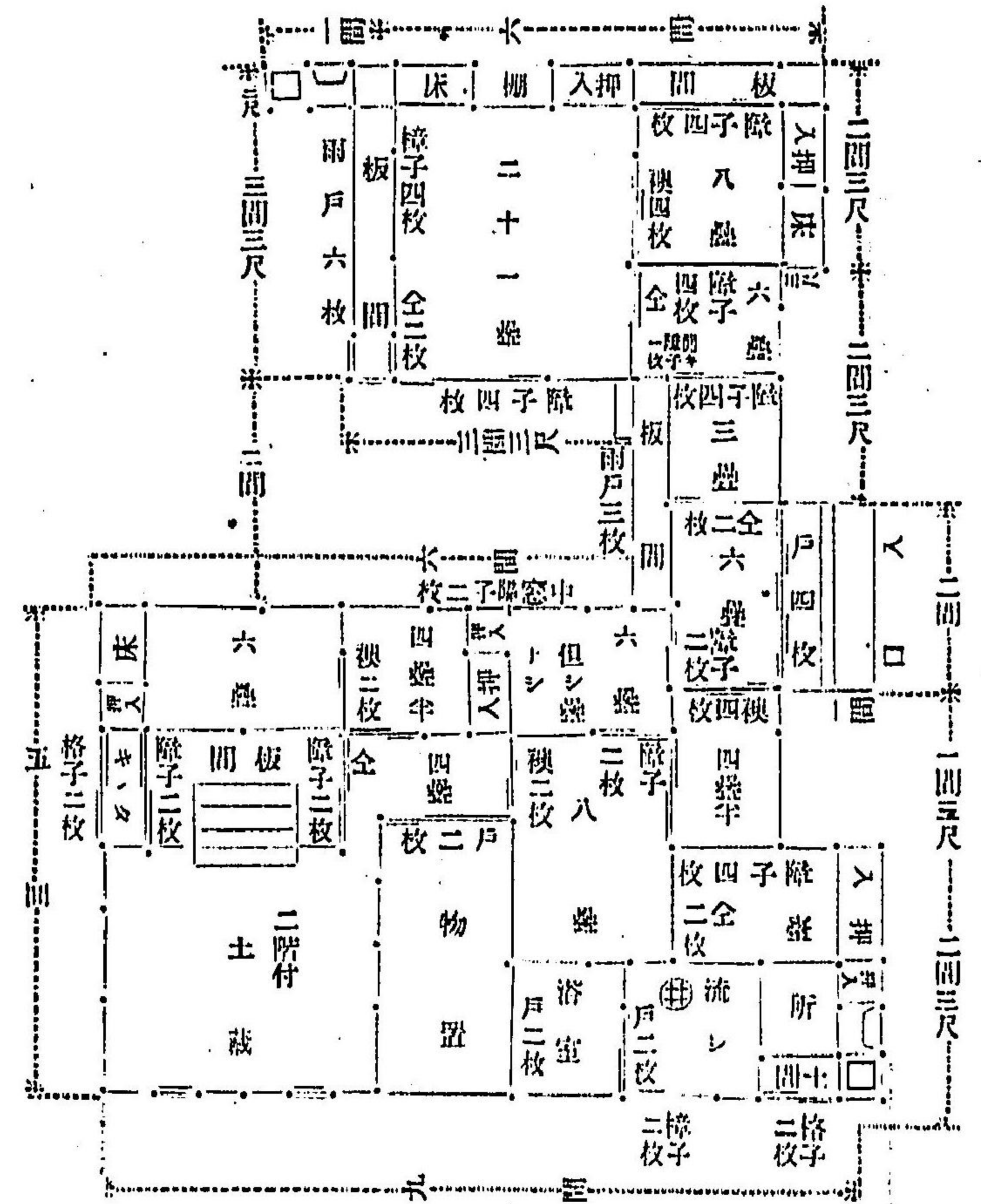
借用地製圖式
陸軍省御所轄何國何郡何村何番地ノ圖



製圖凡例

一借用地ノ區域ハ朱線ヲ畫シ各直線ニ間數ヲ記載シ且方位ヲ示スヘシ
一樹木石壇土壘ノ如キハ其位置ヲ示シ耕地桑田茶園敷池等ハ其敷地ニ各着色ヲ爲スヘシ

借用家屋製圖式
陸軍省御所轄何國何郡何村何番地建家平面ノ圖



○告示第九十七號

御料局静岡支廳所轄ノ御料地ニ係ル民願等ハ渾テ願人在籍市町村長與印ノ上直チニ所屬出張所へ
出スヘキモノハ左項ノ通心得ヘキ旨全廳ヨリ通知アリタリ

明治二十二年十一月十六日

長野縣知事 木梨精一郎

- 一 借地及産物拂下願及此願ニ起因セル伺届書
- 二 被害届

以上ハ支廳長宛チ以テ出サシム便宜出張所長チシテ接受セシム但第三項以下ノ願書等ハ
支廳長チ宛ヘキ例ニアラス

- 三 立木拂受人ヨリ出ス所ノ木挽小屋敷地又ハ炭竈敷地借用願及此願ニ起因セル伺届書
- 四 貸地ノ内事業ニ必要ナル小屋掛敷地借用願及此願ニ起因セル伺届書
- 五 神社祭典佛閣開扉及諸興行等ニ必要ナル敷地借用願及此願ニ起因セル伺届書

以上出張所長宛チ以テ全所ニ出サシム但出張所長ノ官氏名等ハ左記之通
御料局静岡支廳諏訪出張所長心得御料局技手補稻葉六郎
御料局静岡支廳飯田出張所長心得御料局技手補渡邊吾朗

○告示第百號

御料局静岡支廳所轄ノ御料地ニ係ル民願ノ件ニ付本年十一月十六日付第九十七號チ以テ及告示置
候處右ノ内主願ニ起因セル伺届及ヒ再願ノ場合ニ於テハ與印ヲ要セサル旨全廳ヨリ通知アリタリ

シノ部 官有地

二十三年十一月二十七日
令第八百七十二號
五號
要ス

○長野縣告示第百三十二號

一 開墾牧畜ノ爲メ官有原野ノ豫約拂下ヲ出願セント欲スルモノアルハ願書ニ開墾牧畜ノ方法收支豫算書及實測圖面ヲ添書留郵便ヲ以テ直ニ知事ニ差出スヘシ
一 豫約拂下願書ヲ知事ニ差出シタルトキハ同時ニ其願書及圖面ノ寫ヲ添其所在地ノ町村長ニ届出スヘシ

明治廿三年十二月八日

長野縣知事 内海忠勝

郡 役 所

町 村 役 場

本年勅令第六十九號ヲ以テ官有森林原野及ヒ產物特別處分規則發布相成候處右ニ關スル願ハ直チニ農商務省ヘ進達シ又ハ願人出省候等ノ儀有之哉ノ趣右ハ全ク勅令ノ旨ヲ誤解セヨリ生スル儀ニシテ矢張從前ノ通當廳或ハ大林區署等夫々主管廳ヘ出願可致筋ニ付右等誤解者無之様示諭スヘシ
明治廿三年五月一日
長野縣知事 内海忠勝

郡町村經濟

○乙第百二號

郡 役 所

本年九月本縣乙第百六拾號達郡役所會計規程第十條經費科目豫算流用伺及報告之節別紙書式ニ依ヒ可差出依テ科目表相添此旨相達候事

明治十六年十二月五日

何年度經費豫算細科目流用仕譯書

何々(小科目)之部

高金何圓
一金何圓

最前決定高

何々(細科目)増額

高金何圓
一金何圓

最前決定高

何々(細科目)減額

高金何圓
一金何圓

最前決定高

何々(細科目)増額

高金何圓
一金何圓

最前決定高

何々(細科目)減額

高金何圓
一金何圓

最前決定高

何々(細科目)減額

高金何圓
一金何圓

最前決定高

何々(細科目)減額

長野縣令大野誠代理
長野縣大書記官 島山重信

ノ部 郡町村經濟

七百八十一

七百八十

右之通夫々流用仕候間此段御届仕候也

年 月 日

長野縣令何某殿

何年度經費豫算小科目流用伺

高金何圓
一金何圓

内

金何圓

是ハ何々(増額ノ理由詳細記載スヘシ)

金何圓

是ハ何々(同上)

高金何圓

一金何圓

内

金何圓

増額合計金何圓

何那長 何 某

最前決定高

何々(小科目)増額

何々(細科目)

但何々(細科目)ヨリ

何々(細科目)

但何々(細科目)ヨリ

最前決定高

何々(小科目)増額

何々(細科目)

但何々(細科目)ヨリ

最前決定高

何々(小科目)減額

何々(細科目)

但何々(細科目)ハ

何々(細科目)

最前決定高

何々(小科目)減額

何々(細科目)

但何々(細科目)ハ

減額合計金何圓

右之通夫々流用仕度此段相伺候也

年 月 日

長野縣令何某殿

何那長 何 某

那役所經費科目表

大科	中科	小科	細科	細節
那役所 及中 諸料 費				

シノ部 那町村經濟

科	目	前年度豫算額	本年度豫算額	附記
第一款	財產ヨリ生スル收入	。	。	
一	貸地料			某所字何々宅地(原野)反別何程或ハ坪數何程貸地料一ヶ月金何圓宛
二	藏敷料			某所土藏幾棟壹棟一ヶ月金何圓宛 共有金貸付元金何千圓ハ年幾割何百圓ハ月何割貸付米何石此利米何斗代金何程
三	貸付金穀利子			何種公債證書額面何万圓此一ヶ年分利子金何圓何種公債證書額面何千圓此一ヶ年分利子金何圓
四	公債利子			某所字何々田(畑)小作米何石代金何圓
五	小作米			某所字何々森林箱笠拂代金何圓
六	森林副産物拂代			吹井戸何十個一個ニ付金何圓並井戸何百個一個ニ付金何圓
七	水道收入			
第二款	使用料及手数料			

一	議事堂使用料			一ヶ年間幾日一日ニ付金何拾錢
二	堤塘使用料			某所字何々堤塘幾坪壹坪ニ付金何錢
三	道路並木敷使用料			何街並木敷幾坪壹坪ニ付金何錢
四	何使用料			町村制第八十四條及第八十九條ニ係ル使用料等各別ニ列記スヘシ
五	何手数料			全上
第三款	雜收入			
一	橋錢及渡船賃			何川何橋々錢何圓何川何所渡船賃何圓
二	竹木拂代			何堤竹木拂代金何圓並木枯損木拂代金何圓
三	不用品拂代			不用書籍拂代金何圓反古拂代金何圓糞尿拂代金何圓
四	小學校授業料			生徒何人平均壹人何錢
五	豫知スヘカラサル收入			過怠金科料金賠償金其他豫知スヘカラサル收入ヲ編入スヘシ

第四款	前年度繰越金					
第五款	地方税補助金					
一	教育費補助					小學簡易科教員何人壹人壹ヶ月何圓宛
二	土木費補助					何堤防修築補助費何圓何道路改修補助費何圓
第六款	寄付金					
一	土木費寄付					何橋架設費指定金何圓何用水路修繕費指定金何圓
二	救助費寄付					何救育場費指定金何圓窮民救助費指定金何圓
第五款	町村税					
一	地價割					地價金何圓ニ付何錢本年地租豫算高金何程地租一圓ニ付金何程即チ地租ノ何分
二	營業割					本年度地方稅營業稅ノ何分
三	戶別(家屋)割					本年度地方稅戶數割(家屋稅)ノ何分

町村歳出豫算表記載例備考		前年度豫算額	本年度豫算額	附記
科	目			
第一款	役所(役場)費			
第一項	給料			
一	町村長給料			年俸何百圓若シハ月俸何圓ツ、十二ヶ月分
二	助役給料			月俸何圓何人何圓何人
三	書記給料			前ニ全シ
四	付屬員給料			前ニ全シ
五	収入役給料			年俸何百圓若シハ月俸何圓ツ、十二ヶ月分
六	區長給料			年俸若シハ月俸何圓何人何圓何人
七	使丁給料			月俸若シハ日給何程ノモノ何人何程ノモノ何人

五 消耗品費		筆紙墨代何圓薪炭油茶代何圓
六 郵便費		
七 雜費		何々
以下做之		

○訓令第四號
市町村税ハ其附加税タルト特別税タルトヲ問ハス其納税者中無資力者アルトハ第百二條第二項ニヨリ其納税ヲ延期シ得ルハ勿論情狀ニ因リテハ市町村會ノ議決ヲ以テ其納税額ヲ棄捐スルヲ得ルト雖モ法律勅令ニ於テ規定スルノ外ハ特ニ其納税ノ義務ヲ免除スルヲ得サルモノトス但特別税ニ於テハ地方ノ情況ニ依リ其賦課ノ範圍ヲ定メ其範圍外ニ對シハ納税ノ義務ヲ負擔セシメサルヲ得ヘシ目下右ノ趣旨ニ適合セサル町村條例ノ許可ヲ稟請スル者往々有之ニ付特ニ注意セラルヘシ
明治廿三年一月廿三日
長野縣知事 内海忠勝

各郡長宛

○訓令第七號
町村税ハ成ル可ク從來ノ區町村課税目ヲ存シ當分ノ内ハ別ニ新設ヲ起サ、ルヲ要スル義ハ客歲三月十九日ヲ以テ内訓ニ及ヒタル通りニ有之間接國税ノ附加税ヲ賦課シ若クハ地租七分ノ一其他直

接國税百分ノ五十ヲ超過スル附加税ヲ賦課シ若クハ特別税ヲ新設變更スルカ如キハ町村ノ財政上必要アル場合ノ外ハ勉メテ之ヲ避ク可キハ勿論ナル處往々之ヲ許可シ稟請スルモノアリ畢竟客歲中天災地變ノ爲メ臨時費ヲ要スル等不得巳事實ニ由ルモノ居多ナリト雖トモ抑町村制第百二十六條ノ規定アルハ町村財政ノ處分ハ國ノ利害ニ關係シ有スルヲ以テ之ヲ許否スルニ方テハ精密ノ調査ヲ要スルニ付自今特別税ヲ新設又ハ變更シ若クハ地租七分ノ一其他直接國税百分ノ五十ヲ超過スル附加税ヲ賦課シ及間接國税ニ附加税ヲ賦課スル稟請ニ付テハ賦課ノ適否負擔ノ如何等詳細意見ヲ具シ尙調査ノ参照トシテ左記ノ書類ヲ添付進達セラルベシ
明治廿三年二月四日
長野縣知事 内海忠勝

各郡長宛

經常及臨時歲入出豫算表

組合ニ要スル經常及臨時歲入出豫算表 分擔額ニ對スル課率ハ各町村會ニ委任
明治廿一年法律第十一號ニ依リ存續シタル會ニ要スル經常及臨時歲入出豫算表 分擔額ニ對スル課率ハ各町村會ニ委任シタルモノハ其各町
町村內ノ區又ハ町村內ノ一部ニ於テ要スル經常及臨時歲入出豫算表 町村ノ歲入出豫算表ニ掲ケタルモノハ差出スニ及ハス
町村制實施創始ノ年度ニ係ルモノハ明治廿一年內務省令第四號二條ニ據リ戶長役場事務取扱ニ屬スル費用收入支出豫算表
町村稅賦課總額一覽表 別紙表式
右ノ外參照ニ充ヘキ書類

一 町村税ハ其年度以前ニ於テ賦課徴收スルヲ得サルモノトス但當該年度町村税徴收以前ニ於テ全年度ノ費用ヲ支出セントスルノ必要ヲ生シタル場合ニ於テハ町村制第六條末項ニ依ルカ若クハ前年度ヨリ繰越金又ハ該年度雜收入ヲ以テ便宜支出ニ充ツルニ限ルモノトス

一 從前ノ町村費ニ係ル期滿免除ハ國稅徵收法第三章ヲ適用スルモノトス

一 町村制第九條二項租稅滯納處分中トアルハ國稅滯納處分法第十二條ニ依リ差押命令書ヲ交付シタル日ヨリ公民權ヲ停止スヘキモノトス

一 町村制第十五條五項父子兄弟ノ緣故アル者同時ニ議員ニ選舉セラレタルハ其法文ニ依リ當選者ヲ定メタルヲ以テ生シタル欠員ノ補充ハ直ニ次點者ヲ以テ當選トスヘキモノニ非スシテ更ニ選舉ヲ爲サシムヘキモノトス

一 町村ノ基本財産タル金穀ノ貸付預入ニ關スル町村會ノ議決ハ郡參事會ノ許可ヲ受クヘキモノトス

○長野縣訓令第四百十七號

郡 役 所
町 村 役 場

町村歳入出豫算表中町村税戶別等級制ヲ以テ單ニ地方税戶數割ノ附加税トシテ賦課スルモノアリ右戶別等級制ハ地方税戶別等級制ニ附加スルモノハ外ハ總テ特別税ニ屬シ町村制第二百二十七條七ニ該當スルモノニ無之候條制第二百二十六條ニ據リ稟請ノ手續ヲナスヘシ

明治廿三年十月十日

長野縣知事 内海忠勝

○長野縣訓令第五十九號

郡 役 所

本年四月内務省令第二號第二條豫算書ニ添付スヘキ説明書ハ別冊ノ式ニ依リ整理スヘシ

長野縣知事 淺田徳則 代理

長野縣書記官 小野田元瀨

明治二十四年四月十七日

明治何年度某縣某郡歳入豫算説明

歳入經常ニ關スル部

本年度豫算ヲ以テ前年度豫算ニ比シ金何圓ヲ(増)(減)ス其理由ハ概ネ何々ニ由ル

第一款 財産收入

本年度豫算ヲ以テ前年度豫算ニ比シ金何圓ヲ(増)(減)ス其理由ハ何々ニ由ル

第二款 雜收入

本年度云々

第三款 各町村分賦額

本年度云々

歳入臨時ニ關スル部

本年度豫算ヲ以テ前年度豫算ニ比シ金何圓ヲ(増)(減)ス其理由ハ概ネ何々ニ由ル

第一款 繰越金

本年度云々

ノ部 郡町村經濟

第二款 縣補助金

本年度ニ於テ此補助金アルハ何々ノ理由ニ由リ某費ノ内某費ニ對スルモノ(若干某費ニ對スルモノ若干)ナリ

歳入經常部	科目	本年度前年度		備考	
		豫算高	豫算高		
第一款 財産收入	第一項 不動産收入	第一目 地所貸下料			
		第二目 家屋貸下料			
		第三目 竹木賣拂代			
		第四目 土石賣拂代			
		第五目 下草及産物賣拂代			
第二款 助産收入	第一目 公債證券利				
	第二目 株券利子				
	第三目 預メ金利子				

歳入經常部	科目	本年度前年度		備考	
		豫算高	豫算高		
第一款 授業料	第一項 授業料	第一目 某學校收入			
		第二目 某學校收入			
		第三目 某學校收入			
第二款 物品賣拂代	第一項 物品賣拂代	第一目 用品賣拂			
		第二目 用品賣拂			
第三款 各町村分賦額	第一項 各町村分賦額	第一目 某村			前年度直接千圓稅府縣
		第二目 某村			
		第三目 某町			

第一項 道路橋梁費	第一項 維持費	第一目 修繕費	第一項 管理費	第九款 豫備費	第一項 豫備費	歲出經常部合計	歲出臨時部	第一款 土木費
		第二目 雜費	第一目 番人給					

第八款 財產費	第二項 植物試驗費	第一目 栽培費	第一項 勸業會費	第七款 勸業費	第一項 養育費	第六款 救助費	第四目 院費	第三目 患者費

○長野縣訓令第二百二十三號

郡 役 所
町 村 役 場

一 町村制施行ノ際町村有ニ係ル不動産積立金穀等ハ法律ノ結果ニ依リ自然基本財産ニ屬スルモノナルヲ以テ之ヲ基本財産ニ編入スルニハ町村會ノ決議ヲ要セサルモノトス
一 町村營造物中(道路用開水路)ノ敷地(除ク)土地建物ノ如キ不動産ニ屬スルモノハ收入ノ如何ニ拘ハラヌ基本財産ニ編入スヘキモノトス

長野縣知事 淺田徳則

明治二十四年十月一日

○長野縣訓令第二百二十五號

郡 役 所

縣制施行ニ付自今郡役所經費各項目ノ豫算金額ニシテ不得止流用ヲ要スルキハ豫メ其事由ヲ詳具シテ伺出ヘシ

長野縣知事 淺田徳則

明治二十四年十月五日

郡町村會

○訓令第四百三十號

郡 役 所

町村費ヲ以テ支辨スヘキ事業ニ關シ寄付スル金穀物件ハ町村會ノ評決ヲ經テ寄付者指定ノ費途又ハ使用ニ充ツヘシ
町村費ノ雜收入ハ他ノ收入ト同ク町村會ノ評決ニ付スヘシ

長野縣知事 木梨精一郎

明治二十年十二月二十八日

○訓令第八十三號

郡 役 所
戸 長 役 場

町村制第二十八條ニ依リ議員選舉ノ定マリタルキハ郡長ノ告示ニ依リ直ニ町村會ヲ開ク可シ但町村會ハ町村長ヲ選舉シ認可ヲ得ルニ至ルマテ議員中年長者ヲ以テ議長トス
町村會ハ先ツ町村長及助役ヲ選舉シ議長ヨリ郡長ヲ經テ本廳ヘ差出シ其認可ヲ請フ可シ
町村長助役就職スルキハ收入役並附屬員等ノ選任ヲ爲ス可シ
町村ノ狀況ニ依リ町村條例ノ規定ヲ以テ町村長及助役ヲ有給トセントシ町村會ニ於テ議決シタルキハ議長ヨリ郡長及知事ヲ經テ內務大臣ノ裁可ヲ得タル後之ヲ選舉セシムルモノトス

長野縣知事 木梨精一郎

明治二十二年三月十九日

○長野縣訓令第九十八號

郡 役 所

クノ部 郡町村會

八百十三

郡會及郡參事會議事ノ景況及決議諸件ハ一週間以内ニ報告ス可シ

明治二十四年七月十五日

長野縣知事 淺田徳則

官報登載

〇第二百三十三號

郡 役 所
戸 長 役 場

官省及左ニ記載スル府縣告示ニシテ是迄本縣ニ於テ其郡度告示ヲ來候處右ハ本月三十一日限り相
廢シ候條來ル七月一日已後官報告示並ニ公報欄内ヨリ拔萃シ揭示方可取計此旨相違候事
但本縣告示之儀ハ從前之通

明治十八年六月十五日

長野縣令木梨精一郎代理
長野縣大書記官 鳥山重信

- 一 不動産公證封印簿調製ノ件
- 一 元陸海軍下士卒ニシテ賞金下賜ノ者住所不分明ノ件
- 一 租稅未納者ニ係ル件
- 一 租稅ニ係ル検査員携帶スヘキ印章等遺失紛失燬失盜難及携帶逃走ノ件
- 一 警察官ノ鑑札及手帖遺失紛失盜難等ノ件
- 一 難破船乗組人五十石積以上ノ商船及解漁船流失等所在不分明ノ件
- 一 諸營業請賣行商鑑札遺失紛失燬失盜難及ヒ携帶逃走等ノ件

- 一 郡區長ハ特任條件刪補並郡役所位置變換等ノ件
- 一 住所不分明ノ者搜索ノ件
- 一 地券證及免狀諸證書紛失遺失盜難等ノ件
- 一 漂流物並漂着物ノ件
- 一 燈臺建築及港灣修築費消却金ヲ入津船舶ニ課スルノ件
- 一 徵兵適齡者失踪等ノ件
- 一 人畜傳染病ニ關スルノ件
- 一 地所賣貸受印簿更製ノ件
- 一 諸官廳ノ印官吏ノ官印記章アル官給物品ノ盜難遺失等ノ件
- 一 右等ノ外從來各府縣互ニ通報シ一般ニ公示ヲ要スル事件

〇長野縣訓令第三百二十五號

郡 役 所

福井縣ニ於テ左ニ記載スル事件ハ自今官報ニ登載シ其郡度通知セサル旨通牒アリ
明治二十五年九月十六日
長野縣知事 淺田徳則

〇長野縣訓令第三百三十六號

町 村 役 場

クノ部 官報登載

八百十五

福井縣ニ於テ左ニ記載スル事件ハ自今官報ニ登載シ其都度通知セサル旨通牒アリ

明治二十五年九月十六日

長野縣知事 淺田徳則

一縣令縣達訓令告示ニシテ他ノ廳府縣ニ關係ヲ有スル事項

○長野縣達甲第二十四號

左記ノ件奈良縣ニ於テハ自今官報ニ登載スル旨通知ニ付其都度達示セズ

郡 役 所
町 村 役 場

明治二十四年二月十八日

長野縣知事 内海忠勝

一郡役所町村役場火災ニ罹リ書類等焼失ノ件

○長野縣達甲第四十號

秋田縣ヨリ左記ノ件ハ官報ニ登載可相成事項ナルヲ以テ其時々通報ニ及ハサル旨通牒ニ付自今官報ニ依リ了知スヘシ

郡 役 所
町 村 役 場

明治二十四年三月七日

長野縣知事 内海忠勝

一郡市役所町村役場火災ニ罹リ書類焼失ノ件

一町村ノ廢置分合ノ件

一町村ノ名稱變更ノ件

○長野縣達甲第四十四號

郡 役 所
町 村 役 場

三重縣ヨリ左記ノ件ハ官報ニ登載可相成事項ナルヲ以テ其時々通報ニ及ハサル旨通牒ニ付自今官報ニ依リ了知スヘシ

長野縣知事 内海忠勝

明治廿四年三月十三日

一郡市役所町村役場水災ニ罹リ書類焼失流亡ノ件

一町村廢置分合ノ件

一町村ノ名稱變更ノ件

○長野縣達甲第四十六號

郡 役 所
町 村 役 場

左記ノ件群馬縣ニ於テハ自今官報ニ登載スル旨通知アリシニ依リ其都度達示セズ

長野縣知事 内海忠勝

明治廿四年三月十七日

一郡役所町村役場災害ニ罹リ書類等焼失流亡ノ件

○長野縣達甲第四十八號

郡 役 所
町 村 役 場

左記之件山梨縣及新瀨縣ニ於テハ自今官報ニ登載スル旨通知ニ付其都度達示セス

長野縣知事 内海忠勝

明治廿四年三月十八日

一郡市役所町村役場水火災ニ罹リ書類等焼失流亡ノ件

○長野縣達甲第四十九號

郡 役 所
町 村 役 場

左記之件靜岡縣ニ於テハ自今官報ニ登載スル旨通知ニ付其都度達示セス

長野縣知事 内海忠勝

明治廿四年三月二十五日

一郡市役所町村役場罹災ニ依リ書類等亡失ノ件

○長野縣達甲第五十六號

郡 役 所
町 村 役 場

福島縣ニ於テハ左記ノ件自今官報ニ登載スル旨通知ニ付其都度達示セス

長野縣知事 内海忠勝

明治廿四年四月八日

一郡役所町村役場罹災ノ爲メ書類等亡失ノ件

○長野縣達甲第七十一號

郡 役 所
町 村 役 場

左記ノ件本縣及ヒ各府縣廳ノ分共自今官報ニ登載スルヲ以テ其都度達示セス

長野縣知事淺田徳則代理

明治廿四年四月廿九日

一郡市役所町村役場水火災等ニ罹リ書類焼失又ハ流亡並ニ市町村ノ廢置分合及名稱位置變更ノ件

一町村ノ境界變更ノ件

長野縣書記官 小野田元熙

○ケノ部
縣稅

○甲第二十九號
貸座敷並娼妓賦金ハ郡役所ニ於テ徵收セシム
右布達候事

明治十九年二月廿七日

長野縣令木梨精一郎代理
長野縣大書記官 鳥山重信

○縣令第九十二號
貸座敷營業及娼妓稼業賦金徵收規則別冊ノ通相定ム

明治二十二年十二月廿六日

長野縣知事 木梨精一郎

第一章 貸座敷營業
第一條 貸座敷營業者ノ等級ヲ三等ニ分チ毎月左ノ賦金ヲ課ス

但應徴ニ増減ヲ生シタルハ其時々所轄郡役所ヘ届出ヘシ
上等 應徴七十枚以上 一ヶ月金六圓
中等 應徴六十九枚以下三十枚以上 一ヶ月金四圓五十錢
下等 應徴二十九枚以下 一ヶ月金三圓

廿三年縣令
第廿一號ヲ
以テ但書追加

ケノ部 縣稅

廿三年縣令
第十一號ヲ
以テ本文ノ
通改正

廿五年縣令
第十八號ヲ
以テ本文ノ
通改正

宴席臥室ヲ間ハス總テ遊客ニ供スル盃數ヲ合算ス
第二條 貸坐敷營業ノ免許ヲ得タルハ五日以内ニ所轄郡役所ニ届出ヘシ
但廢業シタルモ亦同シ

第三條 休業中免許鑑札ヲ所轄警察署又ハ分署ニ返納シタルハ其旨所轄郡役所ヘ届出ヘシ
但休業者始業セントスルモ本文ニ同シ

第四條 轉居若シクハ改姓名等爲シ免許鑑札ノ書換ヲ爲シタルハ其旨所轄郡役所ヘ届出ヘシ
第二章 娼妓稼業

第五條 娼妓稼業者ニハ一ヶ月金二圓ノ賦金ヲ課ス
第六條 娼妓稼業ノ免許ヲ得タルハ五日以内(貸坐敷寄留ノ者)ニ所轄郡役所ヘ届出ヘシ
但廢業シタルモ亦同シ

第七條 休業中免許鑑札ヲ所轄警察署又ハ分署ニ返納シタルハ其旨所轄郡役所ヘ届出ヘシ
但休業者始業セントスルモ亦同シ

第八條 轉居若シクハ改姓名等ヲ爲シ免許鑑札ノ書換ヲ爲シタルハ其旨所轄郡役所ニ届出ヘシ
第三章 賦金徴收

第九條 賦金ハ其月十五日前後ノ創廢ニヨリ全額ト半額トヲ區別シ徴收ス
第十條 事故ニ依リ休業又ハ停業日數引續キ十日以上ニ涉ルハ全月分ノ賦金ヲ三分シ其一分ヲ
免除ス二十日以上ニ涉ルモノ亦之ニ準ス

第十一條 賦金ハ總テ翌月三日限り所轄郡役所ヘ上納スヘシ
但廢業シタルハ廢業後三日以内ニ上納スヘシ

○長野縣令第九號

明治十九年日本縣甲第七十六號地方稅營業稅雜種稅取締規則別紙之通改定來ル四月一日ヨリ施行ス
明治二十四年三月十日 長野縣知事 内海忠勝

地方稅營業稅雜種稅取締規則

第一條 營業稅雜種稅ニ係ル各種目ノ營業ヲ爲サントスル者ハ其種類及課稅物件ノ員數ヲ記シ町
村役場ヲ經郡役所ヘ届出領收證ヲ受ク可シ
支店ヲ設ケントスルモ亦同シ

但シ他ニ届出ノ規則アルモノハ各其本則ニ從ヒ後三日以内ニ本條ノ手續ヲ爲スヘシ
第二條 行商又ハ出稼ヲ爲サントスルモノハ前條ノ手續ニ依リ鑑札ヲ受ク可シ

第三條 非營業者ト雖モ課稅物件ヲ所持スルモノハ其種類及員數ヲ記シ町村役場ヲ經郡役所ヘ届
出可シ

但其員數ニ増減ヲ生シタルハ其時々本條ノ手續ヲ爲スヘシ
第四條 第一條營業者ハ別紙雛形ニ倣ヒ看板ヲ調製シ必ス戶外ニ掲出スヘシ
但シ他ニ看板掲出ノ規則アルモノハ此限ニアラス

第五條 前條看板ハ稅率ヲ異ニスル業目毎ニ各別ニ掲出ス可シ
第六條 行商及出稼ヲ爲スモノハ必ス鑑札ヲ携帯スヘシ

第七條 營業者其課稅物件員數ニ増減ヲ生シタルハ其都度町村役場ヲ經郡役所ヘ届出可シ
第八條 市場演劇興行遊覽所ヲ開設セントスルモノハ町村役場ヲ經郡役所ヘ届出可シ

届書ニハ場所日數木戸錢及警察官署ノ許可證又ハ領收證ヲ添フヘシ
 第九條 屠畜ヲ爲サントスルモノハ町村役場ヲ經郡役所ヘ届出可シ
 届書ニハ種類及頭數ヲ記スヘシ
 但届出ノ後屠殺セサルキ又屠殺シタルモ販賣ヲ禁止セラレタルキハ其旨届出可シ
 第十條 左ノ場合ハ五日以内ニ町村役場ヲ經郡役所ヘ届出鑑札ハ書換再渡ヲ受ケ若クハ返納ス可シ

- 一 代換改姓名轉居ヲ爲シタルキ
 - 二 鑑札ヲ失却毀損シタルキ
 - 三 廢業ヲ爲シタルキ
- 第十一條 甲郡ヨリ乙郡ヘ轉居シタルキハ五日以内ニ町村役場ヲ經甲乙兩郡役所ヘ届出可シ
 鑑札ハ轉住地郡役所ニテ書換ヲ請フヘシ
 第十二條 營業者ノ簿冊營業場及課稅物件ハ主務ノ官吏隨時検査スルコトアル可シ
 第十三條 此規則第一條第二條第三條第四條第五條第六條第七條第八條一項第九條一項ニ違背シタル者ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第 號	業 目
	何郡何町(村) 某

領收証番號 二尺五寸

備考

業目ヲ記載スルハ何々卸賣(仲買)(小賣)商或ハ何職ト記載スヘシ

○長野縣令第十四號

本年縣令第九號地方稅營業稅雜種稅取締規則實施後ト雖モ從來ノ營業者ハ免許鑑札ヲ以テ効力ヲ有セシムルニ依リ更ニ改正規則ニ依リ開業ノ手續ヲ爲スニ及ハス

明治廿四年三月廿三日

長野縣知事 内海忠勝

○長野縣令第五號

縣稅賦課徵收方法及縣稅徵收法施行細則通常縣會ノ決議ヲ經別冊之通改正來ル四月一日ヨリ施行ス

明治廿五年一月廿九日

長野縣知事 淺田徳則

縣稅賦課徵收方法

第一章 地租割

第一條 地租割ハ前後兩期ニ區分シ其年四月一日及十月一日現在ノ地租額ニ據リ賦課ス
 但四月一日及十月一日以後納稅義務ノ消滅シタルモノト雖モ其賦課額ヲ變更セス

第二章 營業稅雜種稅

第二條 營業稅雜種稅中税金ヲ一期ニ徵收スルモノハ其年四月一日ノ現在ニ據リ二期ニ徵收スルモノハ其年四月一日及十月一日ノ現在ニ據リ賦課ス
 但四月一日及十月一日以後納稅義務ノ消滅シタルモノト雖モ其賦課額ヲ變更セス

ノ部 縣稅

第三條 營業稅雜種稅中町村ノ地位等級ニ據リ賦課シタル負擔額ハ町村會ニ於テ五月三十一日以前各自ノ賦課額ヲ議定スヘシ

但十月一日現在ニ據リ賦課スルモノハ特ニ町村會ノ議定ヲ要セス前期已定ノ額ニ據ル

工業稅中職工稅ハ町村ノ適宜ニ等級ヲ設ケ町村會ニ於テ議定スルヲ得

第四條 前年度ノ業ヲ繼續シ賦課額議定前廢業スルモノ及四月一日以後新規開業ノモノハ町村長ニ於テ其稅額ヲ査定シ郡長ノ認可ヲ請クヘシ

但代替リ若クハ家族ニシテ其業ヲ讓リ受ケタルモノハ開業者ト看做サス

第五條 職工ニシテ其製作品ヲ販賣スルモノハ商業稅ヲ課ス

第六條 各營業者ニシテ本店支店ヲ設クル者ハ各別ニ課稅ス

第七條 運送會社回漕店取扱駄數及製造所賣上高ハ前三ケ年ノ平均ニ據リ新規開業ノ者ハ第四條ノ規定ニ據ル

但開業后三ケ年ニ滿タサルモノハ推算シテ其數ヲ定ム

第八條 卸賣以下ノ營業者ニシテ家族雇人ヲシテ行商又ハ仕入ヲ爲サシムル場合ニ於テ其營業者ト同居セサルモノハ單獨營業者トシ課稅ス

第九條 第一號表中數種ヲ兼タルモノハ壹個トシテ課稅ス

第十條 左ニ掲クルモノハ項中交互兼業スルモノ各別ニ課稅セス

但稅額ニ等差アルモノハ其重キ一方ニ就キ課稅ス

- 第一項 染物屋 岡染屋
- 第二項 遊藝師匠 遊藝稼人

第三項 藝妓

第四項 乘馬

遊藝師匠 馬

第十一條 第二號表中數種ヲ兼タルモノハ重キ一方ニ就キ課稅ス

但賦課額定リタル後新ニ兼業ヲナスモノハ各別ニ課稅ス

第十二條 左ニ掲クルモノハ其稅金ヲ徵收セス

第一項 馬車會社ノ商業稅

第二項 自己ノ農作物ニ自ラ製作(蠶種ヲ除ク)ヲ加ヘ販賣スルモ店賣及行商セサルモノ、商業稅工業稅

第三項 製造所ニ於テ其製作品ヲ販賣スル商業稅

第四項 生絲ヲ製造スルモノ、糸線並數三個以下ノ工業稅

第五項 職工ニシテ其業體ニ據リ商業稅ヲ課セラレタルモノ、職工稅

第六項 製造所持主洋服裁縫染物屋岡染屋及紙漉炭燒石灰燒ニシテ其製造ニ從事スル職工稅

第七項 手數料又ハ賃銀ヲ受ケ裁縫紡織ノ類ヲ爲スモ專業ニアラサル婦女及生糸製造所工男女ノ職工稅

第八項 紙漉炭燒石灰燒ニシテ其製作品ヲ販賣スルモ店舖ヲ設ケサルモノ、商業稅

第九項 飲食店等ニテ藥物草鞋ヲ小賣スル商業稅

第十項 盲目ノ遊藝師匠及遊藝稼人稅

第十一項 道路ニ立テテ演藝スル遊藝稼人稅

第十二項 白數ニ基以下ノ水車稅

ケノ部 縣稅

第十三項 公許ノ種馬ニ騎乗スル乘馬稅
 第十三條 本縣内ニ於テ營業ヲ爲スモノト雖モ他府縣下ノ營業者タルヲ公認シ得ルモノニ限リ課稅セズ
 但店舗ヲ定メテ營業ヲ爲スモノハ此限ニアラス
 第十四條 演劇諸興行及遊覽所ハ開場前其日數相當ノ税金ヲ徵收ス
 但日數ヲ伸縮シ又ハ木戸錢見料ヲ高低スル場合ニ於テハ其過剩ハ還付シ不足ハ追徵ス
 第十五條 轉業者ハ總テ前業ヲ廢業トシ後業ヲ新規開業トシテ課稅ス
 但第一號表中營業ノ種目ヲ變更シタルモノハ此限ニアラス
 第十六條 其月ニ開業シタルモノニシテ全月中ニ廢業シ尙其翌月ニ至リ全種ノ業ヲ開クモノハ繼續シタルモノトシ課稅ス
 第十七條 甲地ニ於テ納稅後乙地ニ轉住スル者ハ其期ノ終迄徵收セズ
 第十八條 賦課額議定后他町村ヘ轉住スルモノハ其額ヲ變更セズ議定前他町村ヘ轉住スルモノハ第四條ノ規定ニ依ル
 第十九條 船車及水車稅ハ徵收後ニ於テ納稅義務ノ移轉ヲ受クルトアリト雖モ其期ノ終迄徵收セサルモノトス
 第二十條 脫稅ノモノアリテ他日發見スルキハ不納ニ係ル税金ヲ一時ニ追徵ス其町村ノ地位等級ニ依リ課稅スル營業者ハ第四條ノ規定ニ依リ之ヲ定ム
 但三ヶ年以前ニ遡ルヲ得ス
 第二十一條 隣町村會ニ於テ議定スヘキ營業者各自ノ賦課額議定前町村ノ併合アリシルキハ舊町村

等位ノ稅率ヲ以テ其年度ノ負擔額トス
 第廿貳條 前條一町村ノ分割併合ニ係ルモノハ各營業者前年度ニ故テ負擔セシ稅額ヲ以テ其年度ノ負擔額トス
 第三章 戶數割
 第廿三條 戶數割ハ其年四月一日及十月一日納稅義務アル戶數ニ賦課ス
 但四月一日及十月一日以後納稅義務ノ消滅シタルモノト雖モ其賦課額ヲ變更セズ
 第廿四條 戶數割ハ平均割建坪割ノ二途トス其建坪割ハ宅地壹坪當リ地價金ヲ法トシ建坪數ヲ乘シ得ル處ノ數ヲ坪數^{地價金二四}トシテ賦課ス
 但建坪ハ住宅倉庫納屋等總テ戶締アルモノハ算入ス
 第廿五條 戶數割每戶ノ賦課額ハ四月十五日以前町村會ニ於テ議定スヘシ但適宜ノ方法ヲ設ケ賦課スルヲ得ルト雖モ其性質ヲ變換スヘカラス
 十月一日ノ現在ニ據リ賦課スルモノハ特ニ町村會ノ議定ヲ要セズ前期已定ノ賦課額ニ據ル
 第廿六條 戶數割ハ四月一日以後建坪數ニ増減ヲ生スルヲアルモ其年度内ハ賦課額ヲ變更セズ
 第廿七條 戶數割每戶ノ賦課額議定前義務ノ消滅シタルモノ及四月一日以後義務ノ生ツタル戶數ニ係ル賦課額ハ町村長ニ於テ査定シ郡長ノ認可ヲ請フヘシ
 第廿八條 每戶ノ賦課額議定後納期前他町村ヘ轉住スルモノハ其額ヲ變更セズ
 但納稅後轉住スルモノハ其期ノ終迄徵收セズ
 第廿九條 罹災ニ據リ家屋亡失シ備荒儲蓄規則ニ據リ救助ヲ受ケタルモノハ其年度ノ戶數割ヲ徵收セズ
 第三號^{本表ハ後年度各等町村營業人ノ課稅額ヲ査定スル材料ニ供スルモノトス}

商	估	等	級	表
壹等百五十圓以上	拾三等貳拾圓以上	廿五等四圓以上	貳等百廿五圓同	拾四等拾七圓半同
貳等百圓同	拾四等拾七圓半同	廿六等三圓五拾錢同	三等百圓同	拾五等拾五圓同
三等百圓同	拾五等拾五圓同	廿七等三圓同	四等八拾圓同	拾六等拾貳圓半同
四等八拾圓同	拾六等拾貳圓半同	廿八等貳圓七拾五錢同	五等六拾五圓同	拾七等拾圓同
五等六拾五圓同	拾七等拾圓同	廿九等貳圓五拾錢同	六等五十圓同	拾八等九圓同
六等五十圓同	拾八等九圓同	三十等貳圓貳拾五錢同	七等四拾五圓同	拾九等八圓同
七等四拾五圓同	拾九等八圓同	卅一等貳圓同	八等四拾圓同	貳拾等七圓同
八等四拾圓同	貳拾等七圓同	卅二等壹圓七拾五錢同	九等三拾五圓同	卅壹等六圓同
九等三拾五圓同	卅壹等六圓同	卅三等壹圓五拾錢同	拾等三拾圓同	卅二等五圓五拾錢同
拾等三拾圓同	卅二等五圓五拾錢同	卅四等壹圓貳拾五錢同	拾壹等貳拾五圓同	卅三等壹圓同
拾壹等貳拾五圓同	卅三等壹圓同	卅五等壹圓同	拾貳等貳拾圓半同	卅四等壹圓同
拾貳等貳拾圓半同	卅四等壹圓同	卅六等壹圓未滿	拾貳等貳拾圓半同	卅五等壹圓未滿

八百三十

縣稅徵收法施行細則

第一條 縣稅ハ郡長ニ於テ町村ノ納額ヲ測定シ徵稅令書ヲ發スルモノトス
 第二條 徵收法第五條町村ニ對シ發スル徵稅令書ハ第一號樣式ニ依リ全第七條各納稅人ニ對シ發スル徵稅令書ハ第二號樣式ニ依リ調製シ出納吏ヲシテ交付セシムヘシ

第三條 納期アルモノハ納期十五日以前隨時收入ニ係ルモノハ其時々徵稅令書ヲ發スヘシ
 但納期數日ニ涉ルモノハ初日ヨリ起算ス
 第四條 町村長ハ郡長ヨリ徵稅令書ヲ受ケタル時ハ第三號樣式ニ依リ納期以前徵稅傳令書ヲ各納稅人ニ交付スヘシ

第五條 郡長ハ各納稅人ニ對シ發スル徵稅令書ヲ便宜町村長ヲシテ交付セシムルコトヲ得
 第六條 郡長ハ徵稅令書ヲ發シタルトキハ第四號樣式ニ依リ納額調書ヲ製シ縣知事ニ報告スヘシ
 但毎月及隨時收入ニ係ルモノハ前月分ヲ翌月十日迄ニ報告スヘシ

第七條 前條報告ノ後徵稅令書ノ金額ニ異動ヲ生シタルトキハ其時々報告スヘシ
 第八條 徵收法第七條ニヨリ徵稅令書ヲ受ケタル各納稅人ハ税金ヲ縣稅爲換方ヘ拂込ミ其領收證書ニ證印ヲ得テ郡出納吏ヘ納付スヘシ

各納稅人ニ於テ税金ヲ町村收入役又ハ縣稅爲換方ヘ拂込ミヲ爲ストキハ徵稅傳令書又ハ徵稅令書ヲ添付スヘシ
 第九條 町村收入役ハ各納稅人ヨリ税金ヲ領收シタルトキハ即時傳令書ヲ切離シ領收證ヲ交付シ納稅人ハ其領收證ニ町村長ノ檢印ヲ附フヘシ

第十條 町村長ハ納稅人ヨリ前條ノ領收證ヲ差出シタルトキハ書式ノ位置ニ檢印シ之ヲ還付スヘシ
 第十一條 町村長ニ於テ徵收シタル税金ヲ納付スルトキハ第五號樣式ノ納付書ヲ製シ其現金ハ縣稅爲換方ヘ拂込ミ其證印ヲ得テ出納吏ヘ納付スヘシ

第十二條 郡出納吏ハ町村長又ハ各納稅人ヨリ税金ヲ納付シタルトキハ即時別符ヲ切離シ領收證ヲ添付スヘシ

ケノ部 縣稅

八百三十一

ヲ下付スヘシ

第十三條 徵稅令書發付後其納額ニ増減ヲ生シタルトキハ増額ハ更ニ令書ヲ發シ減額ハ其額ヲ町
 村長ニ通告スヘシ

町村長ハ減額ノ通告ヲ受ケタルトキハ納付書ニ其減額金ヲ何月何日減額達ノ分ト外書シ納付ス
 ヘシ

第十四條 町村長ハ納期末日ニ至リ滯納者アリテ徵稅令書ノ金額完納シ能ハサルトキハ其翌日納
 付書ニ滯納金額ヲ外書ニシ且ツ其滯納ノ税目金額及納稅人ノ住所氏名滯納ノ事由ヲ別記シ郡長
 ニ報告スヘシ

第十五條 家資分散ノ處分ヲ受クル者アルトキ其納期限前ニ係ルモノハ町村長ニ於テ納期ヲ經過
 シ滯納報告後ニ係ルモノハ郡長ニ於テ裁判所へ照會シ税金徵收ノ手續ヲ爲スヘシ

第十六條 郡出納吏ハ現金ノ收入アルトキハ第六號様式ノ拂込ミ書ヲ製シ即日縣稅爲換方へ拂込
 ミヲ爲スヘシ

第十七條 毎月收入シタル税金ハ郡出納吏ニ於テ第七號様式ノ報告書ト縣稅爲換方收入月計對照
 表ヲ添へ郡長ノ檢印ヲ得テ翌月五日迄ニ縣出納吏へ送付ス可シ

第十八條 町村長又ハ各納稅人ニ於テ既納ノ税金ニ過誤納アルコトヲ發見シタルトキハ其年月日
 科自金額事由ヲ詳記シ下戻ヲ郡長ニ請求スヘシ

第十九條 郡長ハ前條ノ請求ヲ受タルトキハ之ヲ調査シ豫備金ヲ以テ一時繰換還付シ更ニ縣知事
 ニ請求スヘシ

第二十條 町村長ニ於テ徵收法第一條ノ交附金ヲ請求スルキハ第八號様式ニ依リ每半年度徵收金

額ニ對スル分ヲ四月二十日限郡長ニ差出ス可シ

郡長ハ前項ノ請求書ヲ調査シ第九號様式ニ依リ縣知事ニ請求ス可シ

第二十一條 徵稅ニ關スル諸帳簿ハ第十號ヨリ第十五號ニ至ル様式ニ依リ調製スヘシ
 但徵稅原簿ハ郡出納吏ニ於テ設備スル徵稅簿ヲ以テ便宜兼用スルコトヲ得
 第一號様式

用紙適宜 寸法凡 縱四寸 横三寸

第 何 號	縣 稅	何 郡 何 町 長 氏 名 納
明 治 何 年 度	何 々 稅	前 (後) 半 期 分
印 劄 一金何程 取 扱 主 任 印		
右何年何月何日限當郡役所出納吏へ納付ス可シ 明治何年何月何日		
		何 郡 長 氏 名
		印

本令書金額ハ合計ノミヲ記載シ種類業目等任譯書ヲ添付スヘシ
 劄印ハ郡役所印ヲ用ニヘシ

第二號様式

用紙適宜 寸法凡縦四寸ノモノ二枚横三寸ノモノ一枚縦四寸ノモノ一枚接續

徵 稅 令 書		領	
第何號	縣	第何號	縣
何々	稅	何々	稅
前(後)半	何郡何村氏名納	前(後)半	何郡何村氏名納
又ハ		又ハ	
何期		何期	
分分		分分	
一金何程		取扱	
主任印		主任印	
右何年何月何日限當郡役所出納吏へ納付ス可シ			
明治何年何月何日			
何郡長氏名		何郡長氏名	
印		印	

收 證 書

收 證 書		領	
第何號	縣	第何號	縣
何々	稅	何々	稅
前(後)半	何郡何村氏名納	前(後)半	何郡何村氏名納
又ハ		又ハ	
何期		何期	
分分		分分	
一金何程		取扱	
主任印		主任印	
右領收候也			
明治何年何月何日			
何郡役所出納吏氏名		何郡役所出納吏氏名	
印		印	

テノ部 縣稅

第三號樣式

用紙寸法適宜

第 何 號	何 村町	氏 名 納	明治何年度	縣	稅	後前	半	期	分
			後前						

徵稅傳令書

右何年何月何日限當村收入役へ納付スヘシ

明治何年何月何日 何郡何村町長 氏名 印

一 金何程 主任印 地租割(營業稅)

一 金何程 主任印 戶數割(雜種稅)

收入

第四號樣式

一 金何程

ケノ部 縣稅

地 租 割

第 何 號	何 村町	氏 名 納	明治何年度	縣	稅	後前	半	期	分
			後前						

領收證書

右領收候也

明治何年何月何日 何郡何村町收入役 氏名 印

一 金何程 町村長檢印 地租割(營業稅)

一 金何程 戶數割(雜種稅)

明治何年度縣稅前(何月分)納額調書

一金何程	營業稅
內	
金何程	商
內	業
金何程	稅
金何程	運送會社回漕店稅
金何程	會社稅
金何程	工業稅
內	
金何程	生糸製造所稅
金何程	雜種稅
內	
金何程	料理屋稅
金何程	戶數割稅
一金何程	
右及報告候也	
明治何年何月何日	郡長氏名印
長野縣知事殿	

八百三十八

第五號様式
用紙適宜 以下第二號様式ニ全ク

納	第何號縣稅何町(村)分
付	明治何年度何々稅前(後)半期分
書	徵稅令書第何號ノ分(內)
	一金何程 取、扱、主任印
	右納付候也
	明治何年何月何日
	何郡何町(村)長氏名印
	爲換方印
第何號縣稅何町(村)分	

八百三十九

クノ部 縣稅

領 收 證			
明治何年度何々々	何	第何號	徵稅令書第何號ノ分(内)
税前(後)半期分	何	縣	右領收候也 一金何程 <small>縣稅爲 換方取扱 主任印</small> 明治何年何月何日 何郡役所出納吏氏名 <input type="text"/> 印
	町(村)分	稅何町(村)分	
		爲換 印	
		出納 更印	
徵稅令書第何號ノ分(内)			

八百四十

拂 込 書			
明治何年度何々々	何	第何號	徵稅令書第何號ノ分(内)
税前(後)半期分	何	縣	右領收候也 一金何程 <small>縣稅爲 換方取扱 主任印</small> 明治何年何月何日 何郡役所出納吏氏名 <input type="text"/> 印
	町(村)分	稅何町(村)分	
		爲換 印	
		出納 更印	
徵稅令書第何號ノ分(内)			

第六號樣式

用紙寸法適宜

夕ノ部 縣稅

八百四十一

明治何年度經常部縣歲入
明治何年何月分收入濟報告書

第七號 用紙フルスカップ半葉

科目	縣稅歲入額		過誤納還付		備考
	前月迄取 入濟累計	本月分取 入濟額	前月迄累計	本月分	
	圓 錢 厘	圓 錢 厘	圓 錢 厘	圓 錢 厘	
地租割	160859	3823	3600	0200	
營業稅	36899	10500	2400	0150	
雜種稅	3268	2795	4000	0800	
戶數割	2385	0850	0200	0080	
合計	203411	17968	10200	1230	

郡檢
長印

表書之金額相違無之此段報告候也
明治何年何月何日
何郡役所出納吏
氏名 印

本廳出納吏
長野縣官氏名宛

八百四十三

明治何年何月何日	何々々	稅前(後)半期分	第何號	縣	何町(村)氏名分	爲換
						方印
一金何程						出納
縣稅爲 換方取扱 主任印						吏印
何地縣稅爲換方へ拂込						吏出納 印

八百四十二

第八號

明治何年度前(後)半期町村交付金請求書

徵收書交付金

此 際

一 金

稅 目 徵 收 金 交 付 金

營 業 稅

雜 種 稅

戶 數 割

本行ニ於テ百分ノ四ヲ乘シ算出スヘシ

右 及 請 求 候 也

何 郡 何 町 (村) 長 何 某 印

年 月 日 郡 長 宛

八百四十四

第九號樣式

明治何年度前(後)半期分縣稅徵收費請求書

町 村 名 稅 目 徵 收 高 稅 徵 雜 收 種 高 稅 徵 戶 收 數 高 割 計 徵 收 高 百 分 之 四

計	右 請 求 候 也	年 月 日	縣 知 事 宛	郡 長 氏 名 印	町 村 名	稅 目	徵 收 高	稅 目	徵 收 高	稅 目	徵 收 高	戶 數 割	計	徵 收 高 百 分 之 四

タノ部 縣稅

八百四十五

第十號様式

明治何年度前(後)半期地租割
 徵稅簿
 此帳簿ハ納期毎地租割戸數別ニ區分調製ス可シ

前半期地租割

年月日	摘要	調定額	減額	收入額	官損	殘額
何月何日	第何號徵稅令書ヲ發ス	千圓〇				千圓
何月何日	何々ニヨリ減額(還付)		壹圓〇			九百九十九圓
何月何日	別符請取			五百圓〇		四百九十九圓
何月何日	何々ニヨリ何號徵稅令書ヲ發ス	印貳圓〇				五百壹圓
何月何日	別符請取			五百壹圓		完結

第十一號様式

明治何年度(後)半期何稅(隨時收入)
 此帳簿ハ半年度毎ニ調製各稅目限リ口別ケスヘシ

徵稅簿

前半期職工稅

年月日	摘要	調定額	收入濟減額	納稅人
四月一日	第一號令書ヲ發ス	金拾五錢〇	四月一日	何町何村
	第二號全	金拾五錢〇	四月一日	全何
	第三號全	金拾五錢〇		全何
計		金四拾五錢〇	金三拾錢	某

以下月計通計ヲナスモノトス
 第十二號様式

何年度
 縣稅收納日計簿

應名

縣稅收納日計簿	縣稅收納日計簿
收納月日稅	目金
	圓送納月日

テノ部 縣稅

何月何日	地租割	金何程○
	營業稅	金何程○
	雜種稅	金何程○
計		金何程○
以下月計通計ヲナスモノトス		何月何日

(第十三號様式)ノ一

明治何年度縣稅地租割戶數割徵稅原簿(營業稅雜種稅モ之ニ依リ)

郡町(村)役場

(第十三號様式)ノ二

第 一 號 徵稅令書

第 二 號 徵稅令書

第 三 號 徵稅令書

第 四 號 徵稅令書

前
後
半
期
戶
數
割

前
後
半
期
地
租
割

(第十三號様式)ノ三

付發年月		第 號	事 由
付發年月			
割 敷 戶		地租割	名 姓 所 住
計	割々何		
後 半 期	後 半 期	後 半 期	後 半 期
前 半 期	前 半 期	前 半 期	前 半 期
印割金 (全上)	印割金 (全上)	金	金
明治 年 月 日 領 收	明治 年 月 日 領 收	明治 年 月 日 領 收	明治 年 月 日 領 收

ケノ部 縣稅

(第十三號模式)ノ四

第 一 金			第 一 金			第 一 金		
內 譯			內 譯			內 譯		
號			號			號		
徵稅令書			徵稅令書			徵稅令書		
後前	後前	後前	後前	後前	後前	後前	後前	後前
半	半	半	半	半	半	半	半	半
期	期	期	期	期	期	期	期	期
營	營	營	營	營	營	營	營	營
業	業	業	業	業	業	業	業	業
稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅
運	運	運	運	運	運	運	運	運
送	送	送	送	送	送	送	送	送
會	會	會	會	會	會	會	會	會
社	社	社	社	社	社	社	社	社
稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅
卸	卸	卸	卸	卸	卸	卸	卸	卸
賣	賣	賣	賣	賣	賣	賣	賣	賣
以	以	以	以	以	以	以	以	以
下	下	下	下	下	下	下	下	下
稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅
工	工	工	工	工	工	工	工	工
業	業	業	業	業	業	業	業	業
稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅
生	生	生	生	生	生	生	生	生
系	系	系	系	系	系	系	系	系
製	製	製	製	製	製	製	製	製
造	造	造	造	造	造	造	造	造
所	所	所	所	所	所	所	所	所
稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅
何	何	何	何	何	何	何	何	何
々	々	々	々	々	々	々	々	々
稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅
料	料	料	料	料	料	料	料	料
理	理	理	理	理	理	理	理	理
屋	屋	屋	屋	屋	屋	屋	屋	屋
稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅
何	何	何	何	何	何	何	何	何
々	々	々	々	々	々	々	々	々
稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅

(第十三號模式)ノ四

第 一 金			第 一 金			第 一 金		
內 譯			內 譯			內 譯		
號			號			號		
徵稅令書			徵稅令書			徵稅令書		
後前	後前	後前	後前	後前	後前	後前	後前	後前
半	半	半	半	半	半	半	半	半
期	期	期	期	期	期	期	期	期
營	營	營	營	營	營	營	營	營
業	業	業	業	業	業	業	業	業
稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅
運	運	運	運	運	運	運	運	運
送	送	送	送	送	送	送	送	送
會	會	會	會	會	會	會	會	會
社	社	社	社	社	社	社	社	社
稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅
卸	卸	卸	卸	卸	卸	卸	卸	卸
賣	賣	賣	賣	賣	賣	賣	賣	賣
以	以	以	以	以	以	以	以	以
下	下	下	下	下	下	下	下	下
稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅
工	工	工	工	工	工	工	工	工
業	業	業	業	業	業	業	業	業
稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅
生	生	生	生	生	生	生	生	生
系	系	系	系	系	系	系	系	系
製	製	製	製	製	製	製	製	製
造	造	造	造	造	造	造	造	造
所	所	所	所	所	所	所	所	所
稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅
何	何	何	何	何	何	何	何	何
々	々	々	々	々	々	々	々	々
稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅
料	料	料	料	料	料	料	料	料
理	理	理	理	理	理	理	理	理
屋	屋	屋	屋	屋	屋	屋	屋	屋
稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅
何	何	何	何	何	何	何	何	何
々	々	々	々	々	々	々	々	々
稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅

ノ部 縣稅

八百五十一

八百五十

平均割其他ノ細則ハ適宜増減スルヲ得

(第十三號樣式)ノ五

付發日		月		年		號	第	由	事		
付發日	月	年	付發日	月	年						
稅種			雜			稅業			營		
計		何々		何々		計		何々		何々	
后	前	后	前	后	前	后	前	后	前	后	前
期	期	期	期	期	期	期	期	期	期	期	期
金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金
〔印〕		〔印〕		〔印〕		〔印〕		〔印〕		〔印〕	
金		金		金		金		金		金	
(全)		(全)		(全)		〔書トスヘシ〕		〔書トスヘシ〕		〔書トスヘシ〕	
上		上		上		明治		明治		明治	
年		年		年		年		年		年	
月		月		月		月		月		月	
日		日		日		日		日		日	
領收		領收		領收		領收		領收		領收	

名姓所住

八百五十二

第十四號(表紙)

何年度縣稅											
徵稅簿											
年月日	摘要	納稅額	受入高	拂高	殘高	年月日	摘要	納稅額	受入高	拂高	殘高
四月廿日	戶數前納	參千五百圓			參千五百圓	五月廿日	戶數前納	參千五百圓			參千五百圓
五月六日	収入	貳百圓			參千二百圓	五月七日	収入	何々ニヨリ			參千貳百圓
五月七日	減額	朱記			參千貳百圓	五月八日	収入	貳千圓			參千貳百圓
全 全 全 全 全	全 全 全 全 全	全 全 全 全 全	全 全 全 全 全	全 全 全 全 全	全 全 全 全 全	全 全 全 全 全	全 全 全 全 全	全 全 全 全 全	全 全 全 全 全	全 全 全 全 全	全 全 全 全 全
十五日	過誤納還付	貳拾圓			貳拾圓	全 全 全 全 全	全 全 全 全 全	全 全 全 全 全	全 全 全 全 全	全 全 全 全 全	全 全 全 全 全
全 全 全 全 全	全 全 全 全 全	全 全 全 全 全	全 全 全 全 全	全 全 全 全 全	全 全 全 全 全	全 全 全 全 全	全 全 全 全 全	全 全 全 全 全	全 全 全 全 全	全 全 全 全 全	全 全 全 全 全

(此帳簿ハ地租割戶數割營業稅雜種稅ノ四ケ目ニ區別ス爲スヘシ) 町村收入役

ケノ部 縣稅

八百五十三

前半期自其年四月一日
 後半期自其年九月十一日
 以上四項納期前廢業ノ者納期後開業ノ者ハ隨時之ヲ徵收ス
 藝妓暫間稅
 每月十六日

但納期前廢業ノ者ハ隨時之ヲ徵收ス
 市場演劇興行遊覽所屠畜稅
 届出ノ日

戸數割
 前半期自其年四月一日
 後半期自其年九月十一日
 但納期前義務ノ消滅シタルモノ及納期後義務ノ生シタルモノハ隨時之ヲ徵收ス

○乙第百貳拾五號

土地所有者ニシテ其土地所在ノ戸長役場所轄内ニ居住セサルハ地租地方稅備荒儲蓄金町村費ヲ納ムル爲メ代人ヲ定メ土地所轄ノ戸長役場ヘ届置カシムヘシ
 右相違候事

郡 役 所
 戸 長 役 場

明治十八年六月十日

長野縣令木梨精一郎代理
 長野縣大書記官 鳥山重信

○乙第百九十七號

共有地所ニ對スル地租地方稅町村費ハ共有者一般ノ協議ヲ以テ豫メ其納入取極メ届置シメ右納入ヨリ徵收候様取計フヘシ此旨相違候事
 明治十八年九月七日

郡 役 所
 戸 長 役 場

○縣令乙第五十四號

旅館屋ト唱ヘスシテ他人ヲ自己居住家若クハ其持家ニ居ラシメ之レカ寢食ヲ賄ヒ其料金ヲ受クル者モ旅舍營業人同様地方稅ヲ納メシムヘシ
 明治十九年十一月六日

郡 役 所
 戸 長 役 場

○訓令第百號

ケノ部 縣稅

郡 役 所

三 十 六 等	三 十 五 等	三 十 四 等	三 十 三 等	三 十 二 等	三 十 一 等	三 十 等	廿 九 等	廿 八 等	廿 七 等	廿 六 等	廿 五 等	廿 四 等

八百六十八

九 等	八 等	七 等	六 等	五 等	四 等	三 等	二 等	一 等	等 級	人 員	賦 課 額	壹 人 平 均	村 數
									何 人	何 員	何 拾 何 圓 何 拾 錢	何 圓 何 拾 錢	何 ヶ 村

料理屋芝居茶屋 遊技場人荷席 明治二十二年度何那地方稅商估等級總計表

夕ノ部 縣稅

八百六十九

ケノ部 縣稅

三十五等	三十四等	三十三等	三十二等	三十一等	三十等	廿九等	廿八等	廿七等	廿六等	廿五等	廿四等	廿三等

八百七十一

廿二	廿一	二十	十九	十八	十七	十六	十五	十四	十三	十二	十一	十
等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等

八百七十

第六條 規則第十條ニ據リ其休業日數甲乙兩月ニ跨ルモノハ甲月五日乙月五日甲乙ニシテ甲月分賦金徵收済ノモノハ乙月分ノ賦金ヲ以テ過納分ヲ下ケ戻スヘキモノトス

第七條 貸座敷營業人員并賦金收入額ハ每六ヶ月分紙第一號離形ニ依リ翌月廿日限リ本廳へ差出スヘシ

第八條 娼妓稼業人員并ニ賦金收入額ハ每六ヶ月分紙第二號離形ニ依リ翌月廿日限リ本廳へ差出スベシ

第一號 離形

何那何町(村)貸座敷賦金徵收表何年何月何日何年何月何日

一金何圓 上等何人

内 全月分

金何圓 半月分

金何圓 中等ヨリ轉等

金何圓 下等ヨリ轉等

一金何圓 中等何人

内 全月分

金何圓 半月分

金何圓 上等ヨリ轉等

金何圓

ノ部 縣稅

一金何圓 下等ヨリ轉等

内 中等何人

金何圓 全月分

金何圓 半月分

金何圓 上等ヨリ轉等

金何圓 中等ヨリ轉等

小計金何圓 追納ノ分

一金何圓 何

何年何月分

合計金何圓 免除及不納ノ分

何々事故ニ據リ何月何日ヨリ休業中 何人

全月分怠納 何人

半月分怠納 何人

前期ヨリ越高人員 何人

内 何人

廢業 何人

他公許地へ轉出	何人
外	
他公許地ヨリ轉入	何人
創業	何人
差引	
翌期へ越高人員	何人
右之通相違無之候也	
年月日	
第一部宛	
第二號 離形	
何那何町(村)娼妓賦金徴収表	何年何月ヨリ何年何月ニ至ル六ヶ月分
一金何圓	全月分何人
内	
前期ヨリ引續營業	何人
創業	何人
他公許地ヨリ轉入	何人
一金何圓	半月分何人
内	
逃亡及逃亡ヨリ復業	何人

郡長

廢業	何人
他公許地ヨリ轉出他公許地へ轉入	何人
創業	何人
一金何圓	二旬分何人
内	
何々事故ニテ十日以上休業	何人
分婉後滿期營業	何人
一金何圓	一旬分何人
内	
何々事故ニテ二十日以上休業	何人
分婉後滿期營業	何人
小計金何圓	
追納分	何人
一金何圓	
内	
何月中全月(何旬)分意納	何人
何月中全月(何旬)分意納	何人
合計金何圓	
免除及不納ノ分	

テノ部 縣稅

○長野縣訓令第十五號

何々事故ニ付何月何日ヨリ休業中	何人	
妊娠ニ付何月何日ヨリ休業中	何人	
怠納	何人	
逃亡	何人	
前期ヨリ越高人員	何人	
内		
廢業	何人	
他公許地へ轉出	何人	
逃亡	何人	
外		
創業	何人	
逃亡ヨリ復業	何人	
差引		
翌月へ越高人員	何人	
右之通相違無之候也		
年月日		
第一部宛		
		郡 長

廿三年縣令
第七十二號
依り消滅
ハ廿五年縣令
第五號ニ

客年縣令第七十二號徵稅傳令書ニ捺捺スル役場印章ハ左ノ離形ニ依リ調製スヘシ
明治二十四年二月六日
長野縣知事 内海忠勝

方五分字体適宜
長野縣
何郡何町
村役場印

○長野縣訓令第三十七號

地方稅徵收事務取扱規程別紙之通制定シ來ル四月一日ヨリ施行ス
但明治十九年五月本縣乙第九十九號ハ本規程施行ノ日ヨリ廢止ス
明治二十四年三月十八日
長野縣知事 内海忠勝

郡 役 所
町 村 役 場

第一條 營業稅雜種稅ニ係ル各種目ノ營業人臺帳ハ第一號離形ニ倣ヒ調製シ郡役所ニ備置ク可シ
第二條 取締規則第一條第二條ニ依リ下附ス可キ領収證并鑑札ハ第二號離形ニ據ル可シ
第三條 取締規則第三條但書第七條及ヒ第十條各項ニ由リ届出ヲ爲シタルトハ其時々臺帳ヲ訂正

ケノ部 縣稅

八百八十一

廿五年訓令
第廿八號
以テ地方稅
納處分濟
報告表ヲ改
定ス

ス可シ

第四條 取締規則第十一條ノ届出ヲ爲シタルモノアルキハ甲郡役所ヨリ乙郡役所ヘ左ノ諸項ヲ記シ通知ス可シ

但其轉居徵稅令書發付後ニアルトキハ甲乙郡長ニ於テ徵收法施行細則第九條ノ手續ヲ爲ス可シ

一 營業種類
一 課稅物件員數
一 納稅額

第五條 郡長ハ町村長若クハ各納稅人ヨリ過誤納金ノ下戻ヲ請求スルキハ調査ノ上還付ス可シ

第六條 前條還付ニ際シ已ニ送金後ニ係ルキハ郡役所豫備金ヲ以テ一時繰替支出シ更ニ知事ヘ宛下戻請求ス可シ

第七條 町村長ハ毎年四月一日ノ現在ニ依リ左ノ諸表ヲ製シ全月十日限り郡長ニ報告ス可シ

一 營業稅雜種稅課目課額員數表 (第二號雜形)
一 地租戶數算出建坪調 (第四號雜形)

第八條 郡長ニ於テハ前條報告ヲ纏束シ郡計表ヲ製シ更ニ廿日以内ニ内務部長ニ報告ス可シ

第九條 郡長ハ左ノ諸表ヲ製シ期限ノ内務部長ニ報告ス可シ

一 地方稅每半期收入精算報告書 (第五號雜形) 納期後五十日(月稅及臨時收)限
一 地方稅總決算報告書 (第六號雜形) 五月二十日限
一 地方稅滯納處分濟報告表 (第七號雜形) 全上

第十條 郡吏員ハ臨時町村吏員ヲ隨ヘ各營業者ニ就キ検査ス可シ

但町村長ハ其町村内各營業者ニ就キ時々本條ノ検査ヲ爲ス可シ

第十一條 地方稅徵收ニ關スル諸帳簿検査ノ爲メ若クハ前條ノ検査ニ際シ監査トシテ隨時主任官ヲ派出セシムルヲアル可シ

第壹號雜形ノ一

○印ハ朱書

營業種目	價收證番號	開業年月日	事	由	住所	姓	名
					何郡	何町(村)	某
收入年度	等級又ハ課稅物件員數	普通額又ハ一個ノ稅率	稅	額			
廿四年度							
廿五年度							
廿六年度							

ケノ部 縣稅

ケノ部 縣稅

十 月	九 月	八 月	七 月	六 月	五 月	四 月	月 別 別	年 度	何 年 度	月 稅 額 何 圓	(々何) 妓	
											號	日 何° 月
											名	藝
											何°	吉
											寄	
											何町村何番地何ノ誰方	
											何°	某
											生°	年 月

八百八十五

第壹號雛形ノ二

藝	第	何°	何年何治明	課目 番領收 年開 月日業	業	目	事	由	本籍及寄留地姓 名	籍	木	何縣何國何郡何町村何番地 士族平民何ノ誰何女又何々	卅三	卅二	卅一	三十	廿九	廿八	廿七		
													年	年	年	年	年	年	年	年	年

八百八十四

夕ノ部 縣稅

第貳號離形ノ二

表面

裏面

○ 年月日

長野縣 長野縣

何郡 役所

何郡 役所

格印

第何號

○ 業 目

何郡何町何番地

姓村何番地

名

八百八十七

第貳號離形ノ一
第何號

一何々營業届
右領收候也
年月日

證

何郡何町(村)
何 某

何郡役所印

合 計	三 月	二 月	一 月	十 二 月	十 一 月

八百八十六

クノ部 縣稅

種	雜								合計	
	遊藝師匠	備人請宿	理髮人	湯屋	飲食店	人寄席	遊技場	芝居茶屋		料理屋
一			無							
人	等		床	等	等	等	等	等	等	
三			二十五錢							
圓										

八百九十一

小計	業										諸製造所		
	石灰燒	炭燒	紙漉	岡染屋	染物屋	洋服裁縫業	寫真業	職工	計	百圓未滿	百圓以上	三百圓以上	
	一	一	一	一	一	一	一	一		百圓未滿	百圓以上	三百圓以上	
	個	個	個	人	個	人	人	人		一	一圓五十錢	二圓五十錢	
	二	五	八	二	十	二	三	三					
	圓	錢	十五錢	圓	錢	圓	圓	錢					

八百九十

稅										
漁業					乘馬	水車		俳優	相撲	遊藝稼人
流シ網	支川ノ切築	同半瀬ノ切築	同第二以下	幹流本瀬ノ切	獨立漁業	計	擣	挽	一	一
十	五	十	二十	四十	二十五	二	十	三十	八	八
圓	圓	圓	圓	圓	錢	圓	錢	錢	圓	圓

八百九十二

右之通相違無之候也
 明治 年 月 日
 何郡長殿
 何郡町(村)長 何 某印

第四號離形ノ一
 地租戸數建坪調
 一明治 年四月
 一日現在調

月	雜種稅	合	計		
			賃牛馬	捕鳥獸	採藻
員	課	計			
數	目				計
	莖				
	妓				
	下				
	調				
	帶				
	間				

ケノ部 縣稅

八百九十三

種別	資本金千圓以上 千圓以下	計	卸賣以下稅				稅	率	員	數	稅	金
			等	壹	何	計						
會社稅												
廻漕店稅												
等												
壹萬圓以上												
何千圓以上												
何百圓以上												
計												

九百四

種別	資本金千圓以上 千圓以下	計	卸賣以下稅				稅	率	員	數	稅	金
			等	壹	何	計						
縣稅												
卸賣以下行商稅												
等												
壹萬圓以上												
何千圓以上												
何百圓以上												
計												

ケノ部 縣稅

九百五